

令和 5 年度

体 育 情 報

第 6 6 号



岡山県小学校体育連盟
岡山県小学校教育研究会体育部会
事務局 岡山市立御南小学校

も く じ

あいさつ	会長 那須 健二	1
令和4年度 事業報告		2
令和5年度 事業計画		8
令和5年度 研究の取り組み		11
水泳・陸上運動優秀児童表彰基準と表彰手続き		29
地区別記録会（水泳・陸上運動）の実施について（R5）		32
岡山県小学校体育連盟規約		40
岡山県小学校体育連盟表現専門部規定		42
岡山県小学校体育連盟役員選考にかかわる内規		43
岡山県小学校教育研究会体育部会規約		44
令和5年度 各種役員名簿		45
令和5年度 岡山県小学校体育連盟 支部役員一覧表		48
令和5年度版 「わたしたちの体育」集計表		49



あいさつ

岡山県小学校教育研究会体育部会

岡山県小学校体育連盟

会 長 那 須 健 二

令和5年度も、本部会、本連盟の会長を務めさせていただくことになりました。先生方の変わらぬご支援を頂戴しながら、責務を全うしてまいりたいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

さて、現在、教育現場では様々な変化がおきています。その1つは、「新型コロナウイルスの流行そして収束」によるものです。感染拡大により学校教育は大きな影響を受けてきました。学校体育においてもその影響は大きく、体育の授業や体育的行事に様々な制限が加わりました。今年の5月8日をもって2類相当から5類に移行されましたが、すべてを以前と同じに戻すわけではありません。元に戻すもの、よりよい方法で継続していくもの、これを機に中止にするものなど様々だと思います。この3年間の試行錯誤を生かしてベストな方向を探っていく必要があります。もう1つは、「働き方改革」によるものです。学校体育が問題視されることも多く、体育的行事の縮小についてもよく耳にします。運動会の規模縮小、陸上記録会や水泳記録会の中止やそれに伴う陸上練習や水泳練習の中止などを検討している地域もあり、子どもたちが運動と接する機会が減っていきようとしています。中学校では部活動の地域移行に向けた流れが加速しています。子どもたちと運動をつなぐ大きな役割を果たしていた学校体育の存在価値が、どんどん小さくなっていくように感じます。

そんな中で、私たちが大切にしないといけないことは、体育の授業の充実です。魅力ある運動と出会った子どもは、自分から積極的に運動と関わろうとするようになります。そして、生涯にわたり運動と親しんでいく。そんな子どもを一人でも多く育てることが私たちの使命だと思います。また、本連盟の運営についても変革をしていかないといけないことが出てきます。おいそがしい日々の中で誠に申し訳ありませんが、みなさんと知恵を出し合いながら本連盟のあるべき姿を探っていきたいと思いますので、お力をお貸しいただければと思います。

最後になりましたが、本部会、本連盟の活動を、いつも温かく見守り、支え続けてくださる岡山県教育委員会、さらに、県下各市町村の教育委員会の先生方に心より感謝と敬意を表し、あいさつとさせていただきます。

令和4年度 事業報告

1 各支部主催の体育研究会の助成

郡 市	学校名	期 日	研究内容および研究主題
岡 山			
加 賀	吉備中央・津賀小	R4.11.29	課題に向き合いながら、夢中になって挑戦し続ける子どもの育成
			器械・器具を使っでの運動遊び 1年 器械・器具を使っでの運動遊び 2年
備 前			
赤 磐			
和 気			
瀬 戸 内			
玉 野			
倉敷(倉敷)			
倉敷(児島)			
倉敷(玉島)	倉敷・乙島小	R4.9.29	自分のめあてをもち、ともに夢中になって活動し続ける子どもの育成
			体づくりの運動遊び 1年
倉敷(船穂・真備)			
浅 口			
笠 岡			
小 田			
井 原			
総 社			
高 梁	高梁・川上小	R4.11.4	運動に調整し続ける子どもの育成
			とび箱運動 3年 とび箱運動 4年
新 見	新見・刑部小	R4.10.24	基本的な動作の知識を身につけ、その力を活用し、主体的に運動を楽しもうとする子供の育成
			ボール運動 2年
津 山			
苫 田			
勝 田			
久 米			
真 庭	真庭・木山小	R4.11.22	児童が運動独自の面白さを追求し続けることのできる器械運動(マット運動)の授業づくり
			器械運動 6年
美 作			

2 各支部主催の実技講習会の助成

郡 市	内 容	郡 市	内 容
岡山(全市)		浅 口	
(北1・北2)		笠 岡	
(中・東)		小 田	
(南)		井 原	
加 賀		総 社	
備 前		高 梁	表現運動 陸上運動
赤 磐		新 見	表現リズム遊び 陸上運動
和 気		津 山	
瀬 戸 内		苫 田	
玉 野		久 米	
倉敷(倉敷)	表現運動 体づくりの運動遊び・ゲーム	真 庭	表現運動
倉敷(児島)	表現運動	美 作 勝 田 英 田	
倉敷(玉島)	表現運動		
倉敷(船穂・真備)			

3 優秀児童の表彰

郡 市	水 泳	陸 上	郡 市	水 泳	陸 上
岡 山	3	447	高 梁	7	15
備 前		16	新 見	31	26
赤 磐	21	44	苦 田		
和 気	9	22	久 米	1	
瀬 戸 内	21	51	真 庭	20	53
玉 野	6	28	加 賀		11
倉敷(倉敷)	117	221	美 作	20	30
倉敷(児島)		13	津 山	25	115
倉敷(玉島)	15	30			
船穂・真備	4	9			
浅 口					
笠 岡	16	55			
小 田		3			
井 原	10	39			
総 社		35	合 計	326	1263

- 4 「体育情報 第65号」の編集・発行
県下各小学校に一冊配付
- 5 中・四国小体連誌「中・四国の体育 第52号」の配付予定（6月以降）
県下各小学校に一冊配付
- 6 表現専門部主管による指導者研修会の開催
・期日 令和4年7月28日（木）
・会場 岡山武道館 主道場
・講師 ノートルダム清心女子大学 准教授 安江 美保 先生
- 7 研究会派遣補助
◎第61回全国学校体育研究大会
・期 日 令和4年11月10日（木）11日（金）まで
・会 場 津市民会館 大ホール 津市島の関14-1
・派遣補助 優良校表彰校・功労者表彰者・事務局
◎第60回中・四国小学校体育研究大会（山口大会）
・期 日 令和4年11月10日（木）11日（金）
・会 場 光市立浅江小学校 光市立島田小学校 他
・派遣補助 発表者・発表補助者・指導助言者
- 8 副読本「わたしたちの体育」の編集と活用法の研究
- 9 研究部の活動
① 研究部会
・期 日 令和3年6月24日（木）
・会 場 岡山市立高島小学校
・参加者 県内各支部の研究部員 他
・内 容 授業公開 授業者 岡山市立高島小学校 居森 陽平先生
研究協議会
令和4年度の研究について 他
② 夏季研修会
・期 日 令和3年8月4日（水）
・会 場 西川原プラザ
・参加者 県内各支部の研究部員 他
・内 容 中四国大会分科会発表提案リハーサル及び協議
研究部会の研究授業の紹介
ウェビングマップ作り 他
③ 冬季研修会
・期 日 令和5年1月17日（火）
・会 場 西川原プラザ
・参加者 県内各支部の研究部員 他
・内 容 代表支部による実践報告
各支部による実践報告
今後の研究について など
④ 各支部主催の研究会

10 地区別水泳陸上運動記録会の開催助成・記録会保険加入

11 体力向上支援助成事業

7支部（地区）からの申請受け，審査後，申請全支部に希望額を助成した。

支部（地区）	申請・助成内容
新 見	ジャベリックボール ソフトボール検1号球 賞状用紙
小 田	ジャベリックボール テーパーボール用ボール ソフトバレーボール ソフトバレーボール
赤 磐	ドッジボール
岡 山	ワイヤレスマイク ヘッドセットマイク
真 庭	ジャベリックボール
倉敷（船穂・真備）	キンボール
倉敷（玉島）	キンボール

12 令和4年度 小学校地区別学童水泳・陸上運動記録会実施報告書

		水泳記録会		陸上運動記録会	
番号	支部名	期日	会 場	期日	会 場
1	岡山	中止		10月29日	1 岡山県総合グラウンド陸上競技場
2	加賀	7月20日	2 吉備中央町立円城小学校	10月13日	1 かもがわ総合運動公園
3	備前	中止		10月14日	1 備前市総合運動公園
4	和気	中止		10月20日	1 本荘小学校運動場
5	赤磐	7月下旬	3 各小学校で実施	10月19日	1 IPU環太平洋大学グラウンド
6	瀬戸内	中止		10月中旬 ～下旬	2 中学校区で実施
7	玉野	中止		10月下旬	3 各小学校運動場
8	倉敷(倉)	中止		11月8日 ・9日	1 倉敷運動公園陸上競技場
9	倉敷(児)	中止		11月8日	1 中山運動公園陸上競技場
10	倉敷(玉)	中止		11月2日	1 倉敷運動公園陸上競技場 (船穂・真備地区と合同開催)
11	倉敷(船・真)	中止		11月2日	1 倉敷運動公園陸上競技場 (玉島地区と合同開催)
12	浅口	中止		9月27日	1 寄島運動場 寄島小学校運動場
13	笠岡	中止		10月18日	1 笠岡陸上競技場
14	小田	中止		10月13日	1 小田小学校
15	井原	中止		10月6日	1 井原市運動公園 陸上競技場
16	総社	中止		10月4日	1 総社北公園陸上競技場
17	高梁	中止		10月18日	1 神原スポーツ公園
18	新見	中止		10月19日	1 新見防災公園陸上競技場
19	津山	中止		中止	
20	苫田	中止		中止	
21	久米	中止		10月5日	6 美咲町は中止。 久米南町は3校合同で実施。 久米南町総合グラウンド
22	真庭	中止		10月15日	1 真庭市立落合中学校
23	美・勝・英	7月下旬	2 各中学校で実施	10月下旬	2 中学校区で実施

令和5年度 事業計画

1 各支部主催の体育研究会・実技講習会の助成

① 研究会助成対象

授業を伴う支部小体連が主催の研究会であること

◎ 助成額 1回の研究会について 20,000円

◎ 助成回数 制限はしない

② 実技講習会助成対象

実技を伴う支部小体連が主催の講習会であること

◎ 助成額 1回の講習会について 10,000円

◎ 助成回数 各支部3回以内・毎年、特定の領域や講師に偏らないこととする。

(学校数等から、岡山は5支部、倉敷は4支部扱いとする。)

※表現領域(県表現伝達講習)については毎年申請してもよい。

③ 助成手続きに必要な申請

★ 令和3年度よりHPで申請予定

【申請項目】

〔研究会助成金申請〕

- ① 支部名
- ② 理事長氏名
- ③ 申請担当者学校名
- ④ 申請担当者氏名
- ⑤ 申請担当者メールアドレス
- ⑥ 開催期日
- ⑦ 研究会場
- ⑧ 研究主題
- ⑨ 公開領域
- ⑩ 単元名
- ⑪ 学年
- ⑫ 参加人数

〔実技講習会助成金申請〕

- ① 支部名
- ② 理事長氏名
- ③ 申請担当者学校名
- ④ 申請担当者氏名
- ⑤ 申請担当者メールアドレス
- ⑥ 開催期日
- ⑦ 講習会場
- ⑧ 講習領域
- ⑨ 講師
- ⑩ 参加人数

◎ 問い合わせ先

〒701-0153

岡山市北区庭瀬256 岡山市立吉備小学校内

岡山県小学校体育連盟 西田真悟

2 体力向上の取組推進助成 新規事業

体力向上の取組に係る費用について審査の後、必要経費を助成する。

(例) ジャベリックボール 等の用具購入補助

取り組み事例冊子の作成費用補助 など

- ◎ 助成額 申請のあった各支部の内容、金額 等によって決定
- ◎ 助成回数 各支部1回
- ◎ 申請期日 6月30日
- ◎ 助成期日 8月22日までを予定
- ◎ 申請手続きに必要な書類

※1 物品購入代金が、助成金額内である場合、支払いは県小体連が行うことも可

【申請項目】

「体力向上の取組推進助成金申請」

- ①支部名
- ②理事長氏名
- ③目的
- ④助成対象となる物品名・数
- ⑤見積書・請求書

【申請から助成までの流れ】

- ①支部からの申請
- ②助成対象検討会議（会長，副会長，理事長 等）
助成する支部，金額等の決定
- ③県小体連より業者等への入金
- ④購入物品の写真添付

(小体連HPの振込確認用の通帳写真送信フォームから送信可)

- ◎ 問い合わせ先

〒700-0944

岡山市南区泉田408 岡山市立芳田小学校内

岡山県小学校体育連盟 合田典生

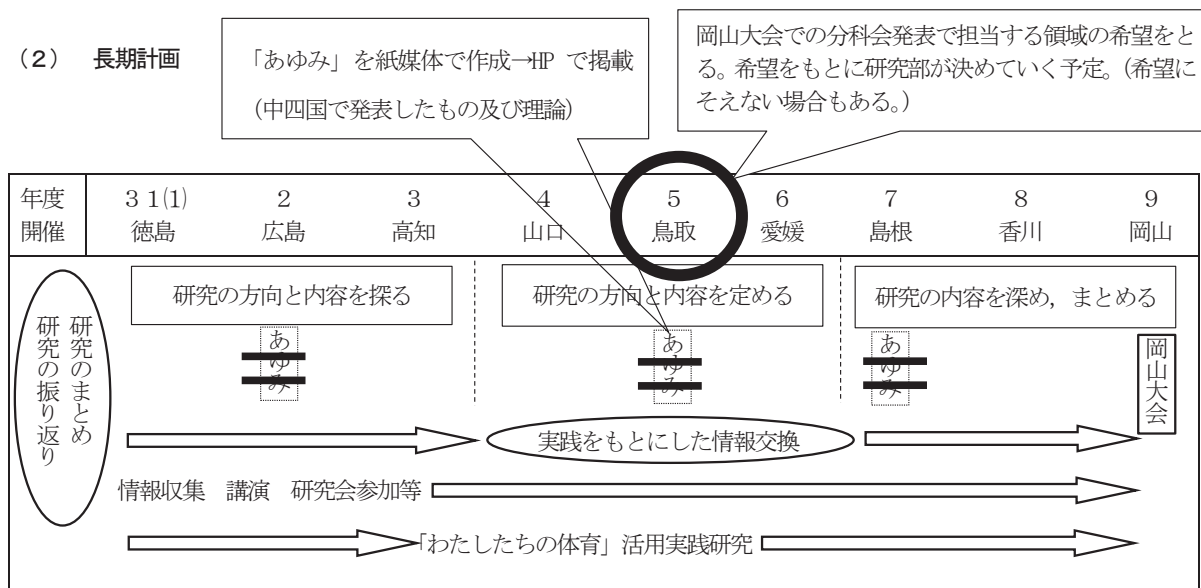
- 3 水泳・陸上運動の優秀児童の表彰
- 4 「体育情報 第66号」の編集・発行
県下各小学校に一冊配付
- 5 中・四国小体連誌「中・四国の体育 第53号」の配付
県下各小学校に一冊配付
- 6 表現専門部主管による指導者研修会の開催
- ・期 日 令和5年7月26日(水)
 - ・会 場 岡山市立大野小学校
 - ・主 題 「表現運動系の授業からクラス作品へ」
 - ・講 師 吉備中学校 副校長 太田 一枝 先生
- 7 研究会派遣補助
- ◎ 第62回 全国学校体育研究大会
 - ・期 日 令和5年11月1日(水) 2日(木)
 - ・会 場 やまぎん県民ホール 山形市双葉町1-2-38
 - ・派遣補助 優良校表彰校, 功労者表彰者, 事務局
 - ◎ 第61回 中・四国小学校体育研究大会(鳥取大会)
 - ・期 日 令和5年11月1日(水) 2日(木)
 - ・会 場 米子市立就将小学校 米子市立湊山小学校 他
 - ・派遣補助 発表者, 発表補助者, 指導助言者, 事務局
- 8 副読本「わたしたちの体育」の編集と活用法の研究
- 9 研究部の活動
- ① 研究部会
 - ・期 日 令和5年6月15日(木)
 - ・会 場 岡山市立津島小学校
 - ・内 容 研究授業, 基本方針と研究計画について
令和5年度の活動方針と夏季研修会について 他
 - ② 夏季研修会
 - ・期 日 令和5年8月3日(木)
 - ・会 場 高島小学校, 西川原プラザ
 - ・内 容 中四国大会分科会発表提案リハーサル及び協議 他
 - ③ 冬季研修会
 - ・期 日 令和6年1月18日(水)
 - ・会 場 西川原プラザ
 - ・内 容 未定
 - ④ 各支部主催の研究会
- 10 地区別水泳・陸上運動記録会の開催助成・記録会保険加入

令和5年度 研究の取り組み

(1) 基本方針

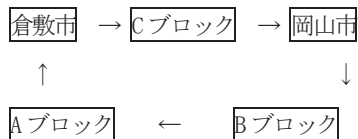
- ◎県小体連が提案した研究主題や視点に基づいて、各支部の研究テーマを設定する。そして、授業提案をもとに、研究内容を深めていく。
- ◎県内各支部の情報交換を今まで以上に活性化し、体育授業のレベルアップを図る。
- ◎体育科の学習の在り方・体育授業の進め方などについて全国的な視野での情報収集を図り、研究実践に反映させる。
- ◎「わたしたちの体育」の活用事例研究を進める。

(2) 長期計画



○中・四国大会での岡山県としての分科会提案の今後の順番

・中・四国大会での分科会提案の順番



※提案数の原則は、中国地方開催の時は2提案
四国地方開催の時は1提案

岡山市：岡山支部
倉敷市：倉敷支部

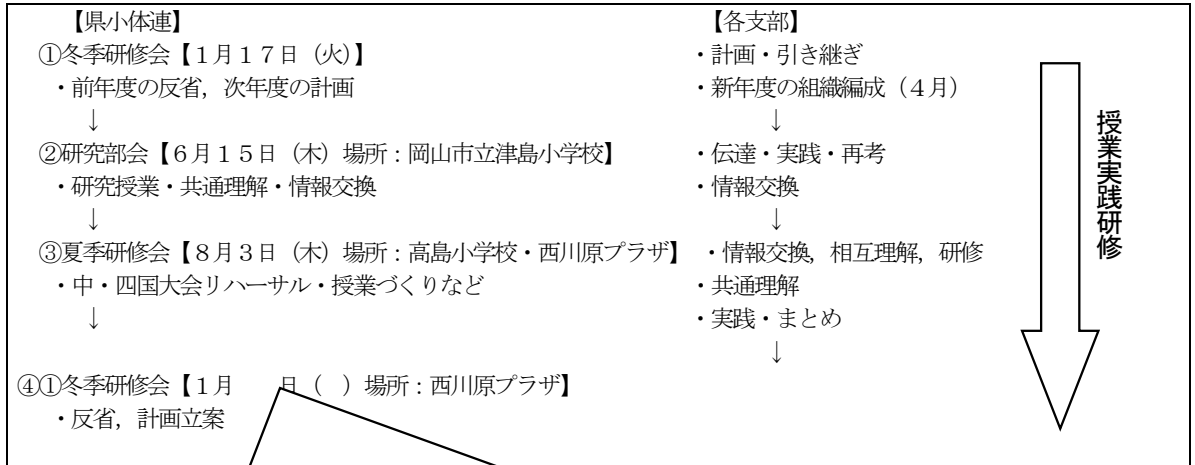
Aブロック：赤磐、瀬戸内、玉野、和気・備前、加賀
Bブロック：浅口、笠岡、小田、井原、総社、高梁、新見
Cブロック：津山、真庭、苫田・久米、美作・勝田・英田

年度	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8
大会県	徳島	広島	高知	山口	鳥取	愛媛	島根	香川
分科会提案数	1	2	1	2	2	1	1	1
ブロック	倉敷市	C：津山 岡山市	B：井原	A：和気・備前 倉敷市 (児島)	C：苫田・久米 岡山市	B：総社	A：加賀	倉敷市
提案領域	器械・器具 (低)	体ほぐし 器械運動 (中・高)	表現運動	ボール運動 保健	陸上運動 水泳	走・跳の運動	体づくり	ゲーム (低・中)

(3) 短期計画（年間計画）

○研究の区切りは冬季研修会とする。

- ・研究における新年度の開始は冬季研修会である。
- ・冬季研修会から異動のある4月までの間に、前年度の支部の研究・取組の引き継ぎが確実に進めるようにしておく
- ・前年度の冬季研修会で示した研究理論に基づいて研究を進める。



○令和5年度の冬季研修で

Aブロック：玉野支部，Bブロック：小田支部，Cブロック真庭支部

※どの支部が「私たちの体育」を使った実践をするかは，話し合いで決める。（R4は津山支部が実践）

代表支部は15分のプレゼン。

他の支部の実践発表はR3と同じで，数分間の動画と紙面

○冬季研での代表発表の輪番

Aブロック

瀬戸内 岡山 玉野 和気・備前 加賀 赤磐

Bブロック

浅口 笠岡 小田 井原 総社 高梁 新見

Cブロック

美作・勝田・英田 津山 真庭 児島 倉敷 玉島・船穂・真備 苫田・久米

※ 代表ブロックの内の1支部が「中・四国の体育」の「私たちの体育を使った実践」を執筆するとともに，冬季研代表発表の際に，「私たちの体育を使った実践」も交えて発表する。ただし，「私たちの体育」の採択状況や各支部と執筆の領域が違う場合，3支部以外に執筆を依頼することも考えられる。

(4) 令和5年度の研究

【運動領域】

中四国小学校体育大会（中庄大会）を終えて4年間で、「誰でも」「何度でも」「いつまでも」挑戦したくなる体育授業を目指して、研究を進めてきた。4年間の研究を通して以下のような成果と課題が見えてきた。

- 技術のみから運動を捉えず、授業づくりを行うことで、誰もが挑戦したくなる授業づくりに向かうことができていく。
- 挑戦課題を共有することが重要である。共有の仕方は複数ある。領域や実態などに応じて、共有の仕方を工夫することが重要であることが分かってきた。
- △子供が挑戦しようとしている様相を見取り、見取った様相を根拠に手立てを講じていくことで挑戦したくなることが分かってきた。一方で、見取りがうまくいっていない実践もあった。
△県小体連が今まで提示してきた挑戦課題では、子供の発達段階や既習経験、ルールや場づくりなどの学習活動の設定の仕方によっては、何度でも挑戦したくなるものになっていないことがあった。
△課題が子供にとって簡単すぎたり、難しすぎたりすると挑戦意欲が低下することがある。子供が挑戦したくなる課題を想定したり、課題との合わせ方を工夫したりすることが何度でも挑戦したくなる授業において必要な条件であることが分かってきた。

成果と課題を受けて、主題に迫るために以下の4点について考え授業づくりを行っていききたい。

- ・ 挑戦課題を発達段階、既習経験に応じたものにしていく必要があること
- ・ 挑戦課題を学習活動とセットでデザインしていく必要があること
- ・ 課題（挑戦課題と問い）そのものを捉え直す必要があること
- ・ 子供の様相をどう見取ったのかが明確にされる必要があること

以上から、今後、運動に挑戦し続ける子供を育成するためには「挑戦課題そのものを捉え直すこと」と「様相を見取り、見取った様相を根拠に手立てを講じていくこと」が大切ではないかと考えた。そのために、「ゲーム論」を手がかりにして授業づくりを行っていく方向性を検討し、その内容を明らかにしていきたいと考える。

原（2022）は『「ゲーム」としてのスポーツは、前提的目標と簡単には乗り越えられない構成的ルールによって生まれる挑戦課題を、内部的目標に向かって試行錯誤する自発的行動である』（原祐一 「ゲーム」としてのスポーツ—つながらる場のデザイン— スポーツ社会学研究 2022 p. 25-38）と述べている。この考え方を基に、挑戦課題を「前提的目標」と「構成的ルール」という2つの視点で捉え直してはどうかと検討中である。

- 前提的目標とは、「どんな状態になることを目指しているのか」である
 - 構成的ルールとは、「前提的目標の達成のために、最善の方法を禁止しているルール」である。
 - 内部的目標とは、「勝利や成功など」である。
- (例) ゴミ捨てゲーム

「ゴミをゴミ箱に捨てる」ことを「ゴミ捨てゲーム」にするには、「ゴミがゴミ箱に入っている状態」を前提的目標とし、「ゴミをゴミ箱まで歩いて持って行って捨てる」という前提的目標を達成するために最も効率的な手段を「この線から出たはいけない」という構成的ルールによって禁止する。そうすることで、プレイヤーは「線から出ずに」ゴミ箱にゴミを投げ入れることができるかどうかという挑戦課題を解決する「ゴミ捨てゲーム」になる。川谷（2015）

例えば「バスケットボール」で考えてみる。中庄大会での挑戦課題は「ボールを運んだりフリーを作ったりしながら、シュートを入れることができるかどうか」であった。この挑戦課題にはシュートを入れるための手段「ボールを運ぶ」「フリーを作る」も含まれていた。そのため、単元の導入時にこの挑戦課題を子供と共有しても、「ボールを運ぶ」「フリーを作る」この意味やよさを実感しにくく、結果、子供にとって挑戦課題が腑に落ちにくくなっていたのではないかと考えた。

では、「ゲーム論」から挑戦課題を捉え直してみる。「ボールをリングに入れる」状態（前提的目標）を目指して、「手のみで扱うこと」と「歩数制限」のルール（構成的ルール）によって「(手でボールを扱い、ボールを持って運ばずに) ボールをリングに入れることができるかどうか」という挑戦課題が生まれる。この挑戦課題であれば、ボールをリングに入れることに挑戦していることが誰にとっても明確になり、結果、子供にとって挑戦課題が腑に落ちやすいのではないかと考える。

例 バasketボール	
「ゲーム論」を手がかりにした挑戦課題	中庄大会までの挑戦課題
「(手でボールを扱い、ボールを持って運ばずに) ボールをリングに入れることができるかどうか」 ※「ボールをリングに入れる」(前提的目標) ※「手のみで扱う」「歩数制限」(構成的ルール)	「ボールを運んだりフリーを作ったりしながら、シュートを入れることができるかどうか」

また、子供が挑戦課題を解決しようとしている様相を見取り、その様相を根拠に手立て(問い、場や用具の提示、ルールの変更、声かけなど)を講じていくことで、挑戦意欲が継続し、挑戦し続ける子供が育つのではないかと考えている。

研究主題(運動領域)

運動に挑戦し続ける子供の育成 ～挑戦課題を捉え直した授業づくり～

研究仮説

- 挑戦課題を捉え直すことで、発達段階や既習経験に応じて、何度でも挑戦したくなるのではないか
- 子供の様相を見取り、見取った様相を根拠にした手立てを講じることで、挑戦し続けることができるのではないか。

研究の視点

①子供が自ら挑戦したくなる姿に向けて

- ・挑戦課題をどのように捉え直したか
- ・挑戦課題をどのように共有したか

②子供がもっと挑戦したくなる姿に向けて

- ・子供の様相をどのように見取り、見取った様相に対して、いつどのような手立てを講じたのか
- ※手立ては「問い」「場や用具」「ルール」「声かけ」などが考えられる

【保健領域】

現状、研究として大きく進められていない。したがって、以下に示す研究理論を継続していきたいと考えている。

保健領域の研究理論

研究主題（保健領域）

健康に関わる課題を探究し、社会とつながる子供の育成

保健領域では、これまでの授業研究で、単元を通した課題を設定することによって、子供や教師にとって学ぶ内容が明確になることが分かっている。一方で、研究の視点に基づく保健領域の実践報告の数が多くないことや、「教科書を教える」ことに傾倒してしまっている実践が散見されることが問題として上がっている。

「教科書を教える」授業づくりの問題点は、課題自体が子供自身にとって身近な内容になっていなかったり、課題から得られた知識が、実生活や実社会で生きて働く知識となっていなかったりすることである。すなわち、課題の設定の仕方が実生活や実社会と関連付けされずに、子供にとって得られた知識を「自分ごと」として活用したいものになっていないからだろうと考えた。

これらのことを踏まえ、健康に関わる課題を自分ごととして捉え、探究する中で得た知識をどのように活用すればよいか考えられる保健学習を目指す必要があると考えた。

そうすることで、社会（家庭・学級・学年・学校・地域など）とつながる子供を育成できると考え、以上のような研究主題を設定した。

保健領域の研究の視点

①「単元を通した課題」を自分ごととして捉えるために

- ・「単元を通した課題」を自分のこととして考えられるための学習活動と学習内容をどうするか。

②探究するために

- ・子供が探究を続けるための単元構成は？

共創することで、挑戦し続ける児童の育成

岡山県和気町立佐伯小学校 港 尚紀
岡山県備前市立吉永小学校 森下 元貴

1 研究テーマについて

備前・和気支部の体育部員に話を聞くと、ボール運動領域では、技能の習得を目的とした指導を重視している傾向があることがわかった。技能の習得を重視すると、運動が得意な児童や競技経験がある児童は、意欲的に取り組むことができるが、運動が苦手な児童は「できない。」「楽しくない。」という思いから、意欲的に取り組むことができないため、運動本来の楽しさに触れることができない姿が見られた。また、その状況を変えようと教師が苦手な児童に合わせすぎたルールを設定すると、今度は得意な児童の意欲が低下して、活動が停滞することが見られた。これらの原因には、既存のスポーツに児童を合わせようとしていたり、教師から一方的にルールや行い方（攻め方や守り方に関する動き・作戦など）が提示されたりしたことにより、児童が自分事として、ボール運動に関わることができていなかったからではないかと考えた。

そこで、「スポーツ共創」の「自分達の運動を自分達で創り上げていく」という考え方に着目した。（『スポつく - スポーツ共創 - 』出典：スポーツ庁WEB ページスポつく）。スポーツに自分達が合わせるのではなく、ルールや行い方などについて合意形成しながら工夫していくことで、全員が楽しむことのできるゲームを共に創り上げていく。また創り上げたゲームを共に楽しむ。そのような学びの過程が授業の中で行われていくと、得意・苦手に関わらず、どの児童も「より楽しくしたい。」「もっとやってみたい。」と運動に挑戦し続けることができるのではないかと考えた。

以上より、本研究では「共創することで、挑戦し続ける児童の育成」と研究テーマを設定し、ネット型のボール運動の実践に取り組んだ。

2 単元について

(1) 単元名

「2バウンドはダメ！つないで！打つぞ！倍返しだ！」 - 5年生 -

(2) 単元目標

- ネット型ゲームの行い方を理解するとともに、片手もしくは両手でボールを床に打ち付けて、味方にパスをしたり、相手のコートにボールを打ち返したりすることができるようにする。【知識及び技能】
- ネット型ゲームのルールを工夫したり、自己やチームの特徴に応じた作戦を選んだりするとともに自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。【思考力、判断力、表現力等】
- ネット型ゲームに積極的に取り組み、ルールを守り助け合って運動をしたり、勝敗を受け入れたり、仲間の考えや取組を認めたり、場や用具の安全に気を配ったりすることができるようにする。【学びに向かう力、人間性等】

(3) 単元構成

挑戦課題

「自分のコートで2バウンドしないで、相手のコートに打ち返すことができるかな。」

問い① 「このゲームをより楽しくするにはどうしたらいいかな。」

問い② 「自分のコートで2バウンドさせないためにはどうしたらいいかな。」

問い③ 「相手のコートで2バウンドさせるためにはどうしたらいいかな。」

(4) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学びに取り組む態度
① ネット型ゲームのルール・行い方について、言ったり書いたりしている。 ② 軽くて柔らかいボールを片手もしくは両手で床に打ち付けることができる。	① 誰もが楽しくゲームに参加できるように、プレイヤーの人数、コートの広さなどのルールを考えている。 ② 自己やチームの特徴に応じた作戦を選んでいく。	① ネット型ゲームの運動に積極的に取り組もうとしている。 ② ルールやマナーを守り、仲間と助け合おうとしている。

③相手のコートにボールを打ち返すことができる。	③友達のよい動きを見付けたり、自分で考えたりしたことを友達に伝えたり書いたりしている。	③ゲームを行う場の設定や用具の片付けなどで、分担された役割を果たそうとしている。 ④勝敗を受け入れようとしている。 ⑤話し合いをする際、仲間の考えや取組を認めようとしている。 ⑥場や用具の安全に気を配っている。
-------------------------	---	--

3 研究の視点

備前・和気支部では、「共創」を「『全員がより楽しくゲームを行う』ことを達成するために、教師は児童の『～したい』という発言などから『発問』を行い、出た考えを基に児童中心に『合意形成』を図っていくこと」と捉えた。「共創」が効果的に行われるために、以下の3つの視点を設けた。

(1) 単元構成の工夫

全6時の内、遅くとも第3時目までにコートの大さきやチームの人数、ネットの高さ、パスの回数、サーブの仕方などのルールを工夫してゲームを創り上げる。単元の中盤以降は、創り上げたゲームで行い方を工夫する単元構成とした。そうすることで、単元を通して児童がルールの工夫に終始することなく、挑戦課題を追究し続けることができると考えた。

(2) 教材の捉え方と導入の工夫

本実践では、「自分のコートで2バウンドしてはダメゲーム」から活動を行うこととした。児童にとって「1バウンドしたら得点」（ソフトバレーボールやバドミントン）よりも、「2バウンドしたら得点」（プレルボールやテニス）のルールの方が既存のスポーツに対する先入観が少なく、ルールを工夫する際に多様な考えが引き出せるのではないかと考えたからである。

また、最初は簡易なルールから始めることで、どの児童も「できそう。」「やってみよう。」「と抵抗感なくゲームに参加することができると考えた。さらに、ルールが簡易だからこそ、「コートを広げたい。」「人数を増やしたい」などと児童自らルールを工夫したくなるのではないかと考えた。

(3) 発問の工夫

単元を通して、児童の「～したい」という思いに寄り添い、児童の考えを取り上げながら学びを進めていく。そのためには、教師が予め、児童の思いや思考の流れ、どのタイミングでどの発問を行うかなどの想定を十分しておくことが大切であると考えた。児童の意欲が持続できるように以下のような表を支部で作成した。

	1時目	2時目	3時目	4時目	5時目	6時目
発問	2バウンドさせないゲームをより面白くするためにどうしたらいいかな。 どうやったら落ち着いて返せそうかな。	より2バウンドさせないようにするには、どうしたらいいかな。 2バウンドしてしまうのはどうしてだろうか。	2バウンドさせずに、よりパスがつながるようにするにはどうしたらいいかな。 自分だったらどんなパスがほしいだろうか。	2バウンドさせずに、よりパスがつながるようにするにはどうしたらいいかな。 誰がどこに立ったらパスがつながりやすいかな。 チームにどんな役割があるといいかな。	相手に2バウンドさせるにはどうしたらいいかな。 どこにアタックしたらより2バウンドさせることができるかな。	相手により2バウンドさせるにはどうしたらいいかな。 自分だったらどんなアタックだったら困るのかな。
児童の思考の流れ	仲間をふやす。パスをありにする。	ワンバウンドしてからさわる。パスをする。仲間と距離をあける。意識しているけどパスができない。	仲間がうちやすい高さや強さでパスをする。声をかける。少しつながってきたけど、まだうまくいかなかった。	練習が必要だな。練習したら続くようになった。ラリーが続くようになってきたから、点が決まらなくなった。	アタックを打つといい。強い球を打つといい。相手がいらない所をねらう。	ネット近くでナナメにうつといい。つよく打つようなフェイントをして、前に落とそう。
ルール	3対3。パスあり。サーブは下投げ。	さわる前にワンバウンドさせる。	(さわる前にワンバウンドさせる)			
ゲームの様相		片手・両手で床にうちつけてパスをすることができる。打ちつける打ち方を場面に応じて行うことができる。	片手・両手で仲間を意識しながら、床にうちつけてパスすることができる。ボールを持たない時の動きを理解して、行うことができる。	片手・両手で仲間を意識しながら、床にうちつけてパスをすることができる。ボールを持たない時の動きを理解して、行うことができる。	チームや個人で協力して、片手・両手で相手コートにアタックをうつことができる。	相手のいないところや相手がとりにくいようにアタックをうつことができる。

【資料1：発問や児童の思考の流れなどの例】

4 授業の実際（全6時）

第1・2時 「このゲームをより楽しくするにはどうしたらいいかな。」

単元の導入時では「自分のコートで2バウンドしてはダメゲーム」から始めた。まずは教師と児童1人だけで試しのゲームを行うと、児童は得点が入る度に盛り上がっていた。見ていた児童から「コートがないと分かりにくい。」という発言が出たので、「横幅や縦幅はどこまでにする？」と発問し、児童の発言を基にコートの広さを決めて再び試しのゲームを行った。ゲームの見通しがもてたところで、「やってみよう」と聞くと、「やってみよう」と反応し、進んで準備を始め、どの児童も「自分のコートで2バウンドしてはダメゲーム」を楽しむ姿が見られた。一通りこのゲームに親しんだところで集め、「何が楽しかった？」と発問した。すると児童は「ラリーが続いたこと。」「自分のコートで2バウンドしなかったこと。」「相手のコートで2バウンドしたこと。」「相手のコートに打ち返すことができるかな」と確認し、共有した。

次に全員が楽しむことができるゲームに創り上げていくために「このゲームをより楽しくするためにはどうしたい？」と発問した。すると児童から「コートを広くしたい。」「人数を増やして友達と協力してやりたい。」「パスを入れたい。」などの意見が出た。「どれくらいのが広い？」「人数は何人がいい？」「パスは何回までにする？」などと発問しながら、児童中心にルールを工夫していく合意形成を行っていった。また、ルールを工夫したら、すぐに創ったゲームを試す時間を設けた。創ったゲームを直後に体感することで、児童はこのゲームをより楽しくするには現状のルールでいいのか、違うルールを追加した方がいいのかを考えることができていた。ルールが工夫されていくにつれて、縦横無尽にボールを追いかけたり、得点が入った時には「やったー。」と喜びながら自然と友達とハイタッチしたりする姿が見られるようになっていった。

第2時目の終末までに「コートはバドミントンコート」「3対3」「ネットの高さは100cm」「パスは3回まで」「同じ人が2回連続でさわったら相手に得点」「相手からのボールは1バウンドしてからさわる」「サーブは下投げ」「5点マッチ」というルールのゲームを創り上げた。（資料2）自分達で創り上げたゲームにどの児童も毎回「やってみよう。」と進んで取り組む姿が見られた。



【資料2：児童が創り上げたゲームの場の様子】

第3・4時 「自分のコートで2バウンドさせないためにはどうしたらいいかな。」

ゲームを創り上げた際の活動中の児童の様相を見取ると、ボールが飛んで来た児童はどの位置であっても1回で相手のコートに打ち返そうとしており、結果失敗して相手に得点を与えてしまう状況が頻繁に見られた。そこで、第2時の終末に書いた振り返りシートから「1回で返すのではなく、パスをするとよい。」という内容を取り上げ、「パスをするとなぜいいの？」と発問した。すると児童から、「自分のコートで2バウンドしにくくなる。」や「ミスが減って相手に返しやすくなる。」と発言があった。そこで、さらに「どの位置でもパスした方がいい？」「ボールが低い時はどうしたらいい？」などと状況に応じた判断ができるようになるための問い返しを行った。そして、児童の発言から「ネットに近い時は1回で返す。ネットから遠い時はパスをする。」や「打ち返すににくい時はボールを下から打ったり、地面に勢いよく叩き付けたりして軌道を高くし、友達が取りやすくなる。」などの行い方を共有した。行い方を共有した後、すぐにチームの作戦タイムを設けたことで、「ネットより遠い時はパスにしよう。」「『パス』や『アタック』と周りの人が声をかけよう。」などと共有した内容を基にチームで取り組むことを合意形成する姿が見られた。（資料3）その後のゲームでは、状況に応じて1回で相手に返したり、パスを選択したりする姿が見られた。またそのような児童に対して「ナイス！今のパスの判断がよかった。」「ナイス！ネットに近い時にはすぐにアタックしたね。」などと価値付けることで、自信をもってゲームに取り組む姿がたくさん見られるようになっていった。



【資料3：作戦タイムの様子】

第5・6時 「相手コートで2バウンドさせるためにはどうしたらいいかな。」

立ち位置や、前衛・後衛などの役割を工夫するチームが出てきたところで、そのチームを紹介し、「立ち位置や役割を決めると何かいいことがあるのか？」と発問した。「前も後ろも守ることができる。」や「すぐに攻撃に移ることができる。」、「前の人（セッター）がトスするとすぐにアタックしやすい。」という児童の発言から、「位置や役割を工夫すると相手コートで2バウンドしやすくなる。」ことを共有した。作戦タイムでは、立ち位置や前衛（セッター）・後衛を誰がするかが話題の中心となっており、位置や役割の視点で話し合いが行われていた。その後のゲームの様相を見取ると、立ち位置や役割が決まることでパスからアタックまでの展開がスムーズになっていった。しかし、アタックを相手の正面に打ったり、アタックのスピードが遅かったりしてアタ

ックによる得点はなかなか奪えず、相手のミスによって得点が入る状況が多かった。そこで、振り返りシートの「もっとアタックをして点を取りたい。」という内容を取り上げ、「どこにアタックをしたらいい?」「どんなアタックをしたらいい?」と発問した。(資料4)すると児童から「相手がいない場所にアタックをしたらいい。」

「コート隅にアタックをしたらいい。」
「スピードの速いアタックをしたらいい。」
などと発言が返ってきた。児童の発言から「アタックを狙う位置やアタックのスピードを工夫すると相手のコートに2バウンドしやすくなる。」ことを共有したことで、行い方が学級に拡がっていった。

4 学習の振り返り(もっと〇〇したい) もっと〇〇できるとおもしろくなりそう)

もっとアタックをして相手に2バウンドさせたいして点もとりたい

【資料4：児童の振り返りシートの内容】

単元終盤では前衛1人がトスをして、後衛2人のどちらかがアタックをするチームや前衛2人がトスをして、後衛1人がアタックをするチームなどメンバーの特徴にあった立ち位置や役割を考えていた。また人のいないところにアタックをしたり、低くて速いアタックをしたり、トスに対して後ろから走りこんでアタックをしたりする姿も見られ、アタックによる得点が増えていった。児童の必要感から行い方を共有し、チームで取り入れる行い方を合意形成していったことで、得意・苦手に関係なくどの児童も「～したらよさそうだ。」「～してみたい。」と最後までゲームに意欲的に取り組む姿が見られた。

6 成果と今後の課題

【成果】

単元を通して、「より楽しくしたい。」「もっとやってみよう。」とどの児童も運動に挑戦し続けることができた。本実践を通して、運動の苦手な児童が「次は後ろに下がってからボールを取ったら、うまくいくのではないかな。」と積極的に話し合いに参加したり、自主学习ノートに作戦や練習方法を考えたりしていた。また、「運動が嫌い。」と言っていた児童が休み時間に、外に出てこのゲームを行う姿が見られたり、本実践以降「体育が好きになった。」という児童が増えたりするなど、児童の変容が見られた。これらは「共創」が効果的に行われるように、以下のような手立てを講じていった結果であると考えられる。

(1) 単元構成の工夫

単元の序盤はルール、単元の中盤以降は行い方の工夫を行う単元構成にしたことで、児童の「より楽しくしたい。」「もっとやってみよう。」という意欲を喚起し続けることに繋がった。高学年の発達段階には、今回の実践のようにルールを工夫してゲームを創り上げ、その後、自分達で創ったゲームで行い方を工夫していくと言う単元構成が良かったと考えられる。

(2) 教材の捉え方と導入の工夫

「自分のコートで2バウンドしたらダメゲーム」から始めたことで、どの児童も見通しをもつことができ、進んでゲームに参加することができた。また、簡易なルールから始めたことで、「コートを広げたい。」「人数を増やしたい。」「パスを入れたい。」「サーブは下投げにしたい」など、児童自らが多様なルールの工夫を考えることに繋がったと考える。

(3) 発問の工夫

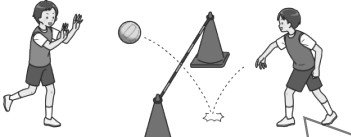
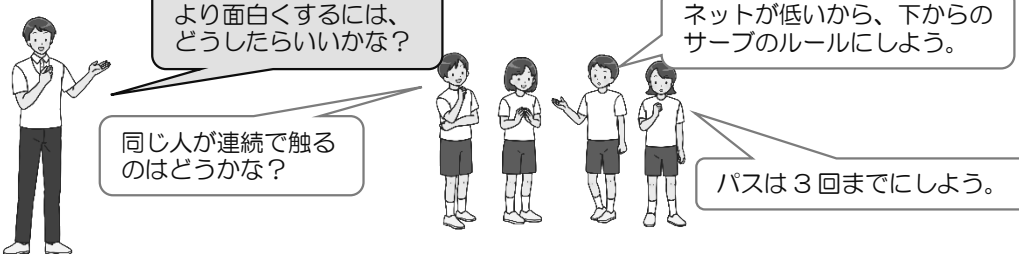

単元を通して、得意・苦手関係なくどの児童も「～したらよさそうだ。」「～してみよう。」「～してみたい。」と最後までゲームに意欲的に取り組む姿が見られた。この姿が生まれたのは、教師が児童の思考の流れを十分に想定していたからである。児童の思考の流れを十分に想定していたからこそ、様相を見取った上で、適切な発問を適切なタイミングで行うことができた。と考える。

【今後の課題】

本実践では、挑戦課題を「自分のコートで2バウンドしないで、相手のコートに打ち返すことができるかな」と設定していた。しかし、児童が追究していたことは「打ち返すこと」ではなく「相手のコートに2バウンドさせること」ではないかと課題が上がった。挑戦課題を検証し直し、児童の思考の流れに沿った「発問」を再度想定し直すことで、「共創」がより効果的に行われ、パスやアタック、チームの連携プレイなどの質が高まっていくのではないかと考える。

また、備前和気支部の他校の実践を聞くと、3時目までにゲームを創り上げようとして展開を急いであげた結果、児童が納得感を得ないままルールを決めてしまうということがあった。「共創」がより効果的に行われていくために、話題が上がったルールのゲームを試す時間や試した後に話し合っただけでルールを選ぶ時間などを確保する必要がある。実態に応じて単元計画の時数を増やすことが改善案の1つになるのではないかと考える。

他にも合意形成を行う際、話し合いの視点や決定時の根拠がなかったため、その場の児童任せになっていたことも課題が上がった。合意形成を行う際の必要な視点は何か、決定時の根拠は何か、どのように合意形成をしていくのか、さらなる検証が必要である。

	第1時	第2時	第3時	第4時	第5時	第6時
	単元を貫く課題 ポールを2バウンドさせずに、相手コートに打ち返すにはどうしたらよいか。					
	問い このゲームをより楽しくするにはどうしたらいいかな。					
学習の展開と学習活動	<p>1 2バウンドさせないゲーム(ゲーム①)に挑戦してみて、どんなボール運動なのか共有する。</p> <p>(1) 教師と児童で、デモンストレーションを行う。</p> <p>(2) 児童同士で実際に挑戦してみる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">【最初のルール】</div> <ul style="list-style-type: none"> ・返す前に2バウンドしてはいけない。 ・1対1 ・コーンを置いて、お互いコートを区切る。  <p>コートの広さをきめたいな。</p> <p>もっと長くラリーを続けるにはどうしたらいいかな。</p>					
	<p>2 ゲーム①をしてきた感想を共有する。</p> <p>3 児童の意見を引き出しながら、場の設定を行う。</p> <p>※ コートの大きさや人数、ネットの高さは、児童の実態に応じて設定していく。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">【創りあげたルール】</div> <ul style="list-style-type: none"> ・バトミントンコートの広さ ・3対3 ・ネットの高さ100cm <p>4 創り上げたルールで、ゲーム②を行った後、より面白くするためのルールや行い方について話し合う。</p>  <p>より面白くするには、どうしたらいいかな？</p> <p>同じ人が連続で触るのはどうかな？</p> <p>ネットが低いから、下からのサーブのルールにしよう。</p> <p>パスは3回までにしよう。</p> <p>5 児童の意見から出たルールをもとに試しのゲームを行い、児童中心にルールを決めていく。</p> <p>6 振り返り</p> <p>※ ゲームの様子を振り返り、「より2バウンドさせないようにするにはどうしたらいいか」というように問いかけをして、次時以降の行い方についての視点がある程度もてるようにする。</p>					
	問い 自分のコートで2バウンドさせないためにはどうしたらいいかな。					
					<p>問い 相手のコートで2バウンドさせるためにはどうしたらいいかな。</p>  <p>相手コートで2バウンドさせるためにはどうしたらいいかな？</p> <p>アタッカー役を作ろう！</p> <p>低くて強いボールを打つとよさそうだな。</p> <p>相手がいらない場所にボールを打ち返したらよさそう。</p> <p>ネット前にパスを出す人がいると、連携がしやすいな。</p> <p>アタックがくるかもしれないから、後へさがっておこう。</p>	
				<p>1 ポール操作の練習を行う</p> <p>「各チームで、パスを50回続けてみよう。」「下に打ち付けるパスのみで、100回続けよう。」などと児童の実態に応じて目標を示してあげてもよい。</p> <p>2 各時の課題について、問いかける。</p> <p>3 チームで課題に応じて話し合い、作戦会議をしたり、練習したりする。</p> <p>4 ゲーム①</p> <p>5 振り返り</p> <p>6 ゲーム②</p> <p>7 振り返り</p> <p>レシーブする人や相手コートに打ち返す人などの役割を決めるとよさそうだな。</p> <p>相手がとりにくいようにアタックしよう！</p> <p>パスをつないで、落ちて着いて相手コートへ返そう。</p> <p>アタックを打ちやすいようにパスをだそう！</p> <p>こっちに打ち込んできたら、ほくがひろろ。</p>		
						<p>2バウンドさせないためにはどうしたらいいかな？よりパスがつながるためにはどうしたらいいかな？</p> <p>パスがもらいやすい位置に移動しよう。</p> <p>パスをつなく練習がしたいな。</p>
	【子どもたちが考えるポイントの例】					
	・場の条件(1時目まで)	・ルール(2時目まで)	・パス(4時目まで)	・役割分担	・アタック	・立ち位置
教師の支援	<ul style="list-style-type: none"> ・場やルールについての発問を行い、児童と合意形成を行いながら固定の場やルールを決めていくことで、児童が中心となって、遊びから運動を考えているように感じることができるようになる。 ・問いや工夫の視点などを掲示しておくことで、児童が作戦を考えたり、振り返りをしたりする時に、同じ視点もてるようにする。 ・1時目までに、ルールが決まらない場合は、2時目に十分な時間を確保し、ルールを比較するための試しのゲームを行ったりするなどして、児童主体にルールを決めることができるようにする。 		<ul style="list-style-type: none"> ・児童がラリーをつなげたり、点を取ったりするために、必要なボール操作練習を適宜取り入れていくことで、基本的な技能を身に付けることができるようになる。 ・授業の始めに、前時の児童の振り返りやゲームの様子から課題を提示することで、各時間に何をすればいいのかを児童が明確にとらえることができるようになる。また、考えた内容を全体で共有することで、合意形成を行うことができるようになる。 ・児童のゲームの様子を見取りながら、児童の実態に応じたタイミングで発問を行うことで、児童のパスやアタックなどの技能や思考が高まるようになる。 			

「健康についての課題を解決するための知識を追求し、
得た知識を実生活で生かそうとする子どもの育成」

岡山県倉敷市立下津井西小学校 田邊 徳之
岡山県倉敷市立郷内小学校 諏訪 太一

1 研究テーマについて

近年、ライフスタイルの変化、スマートフォン・タブレットの普及など、子ども達を取り巻く環境は大きく変化している。さらに、一番大きな変化はコロナ禍における生活様式の変化である。それらの様々な要因が、子ども達の生活に影響を及ぼし、睡眠時間の減少や運動不足、朝食の欠食等の健康についての課題を生んでいる。また、学校生活でもコロナ禍において行事が中止・延期となり、様々な活動も制限されることで、子ども達が心身ともに疲弊している。

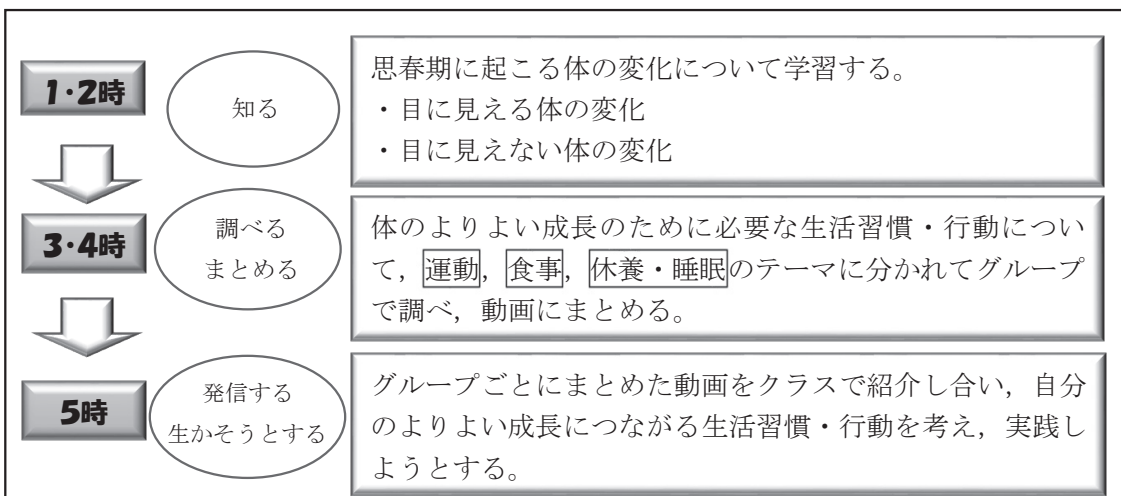
このような状況下で、健康についての課題に気づき、その課題を自分事として捉え、実生活と関連させて考えていく中で、よりよく課題を解決していく資質・能力を育成していくことが大切であると考えた。そのために、倉敷支部児島地区では、子ども達に健康な生活を送っている将来の自分の姿を具体的にイメージさせ、その実現のために自ら課題を見つけ、一人一人が「めあて」をもって課題を追求できる授業作りを考えた。そこで得た知識を実生活に生かしていく力を身に付ける中で、行動変容していく子どもの姿を目指した。

2 研究の視点（行動変容につなげる工夫）

テーマを受けて、行動変容する姿を目指すことにした。行動変容した姿の実現に向けて、次のような手立てを大切にした。

(1) 学習配列の工夫

思春期に起こる体や心の変化を「知り」、よりよい成長のために必要な生活習慣・行動を「調べ」、調べたことを動画で「まとめ」、「発信」し、自分の生活と他グループの発表を比べることで、これからの生活に「生かす」という学習活動の配列にした。この配列により、成長を自分事として捉え、よりよい成長に向けて生活を見直し、自己の課題を解決する方法を考え、実生活に生かすことができるようにした。



(2) アクションプランの工夫

健康についての課題を解決するために、「どんなことに取り組むか」・「どうしたら続けられるか」という視点で実際に取り組むことができる計画を考えるようにした。その方法を「アクションプラン」という名前で提示することで、子ども達が興味をもって取り組むことができるようにした。また、自分の考えと友達のことを比べることで、自分にとってよりよい成長につながる実践可能なアクションプランを考えることができるようにした。このことで、単元学習後に日々の生活に生かそうとする意欲を高めることができるようにした。

(3) 発問の工夫

子どもの思考をより深めることができるようにするために、意図した発問をした。体の目に見える変化と目に見えない変化について学習した際に「何もしなくても勝手に成長するのかな？」と発問することで、体のよりよい成長のために必要な「運動」「食事」「休養・睡眠」に目を向けることができるようにした。また、友達に調べたことを伝えるための動画をまとめる際【写真1】には、「どうしたらやってみたくなる?」「それって本当に続けてできるの?」などと発問をすることで、自分自身の生活を見直したり、友達が実践したくなるような伝え方の工夫を考えたりすることができるようにした。

(4) グループ分けの工夫

「運動」「食事」「休養・睡眠」を調べる際に、自ら興味があるものや、必要だと思うものを選択し、調べた。そうすることで、自己の課題に進んで向き合ったり、自分達が主体的に発信したりすることができるようにした。



【写真1：役割分担をして撮影している様子】

3 単元について

(1) 単元名 知ろう体を！生かそう生活に！！（4年生）

(2) 単元の目標

体の発育・発達に関する課題を見つけ、体が年齢に伴って変化すること、体の発育・発達には個人差があること、思春期になると体に変化が起こり、異性への関心も芽生えること、体の発育・発達には適切な「運動」「食事」「休養・睡眠」が必要であることを理解することができるようにする。また、自分自身の課題解決に向けて考え、実生活に生かそうとすることができるようにする。

(3) 児童の実態

体の成長については、年に数回実施する発育測定の際に、身長や体重の数値に興味を示している児童が多く見られる。また、今までの成長を素直に喜ぶ半面、友達と比較することで、今の自分の体やこれから起こる体の変化について不安を感じている児童もいる。そのため、体の発育・発達には個人差があることについては特に配慮して学習を進めたい。

(4) 単元の構想

成長していくことを自分事として捉え、よりよく成長していくために必要な生活習慣・行動について考えることで、行動変容していくことができるように、単元を貫く課題を「成長って何だろう」と設定した。また、それぞれの学習時間で子ども達が何について試行錯誤していけばよいかを明確にするために、単元を貫く課題をより具体的に「問い」を提示していくようにする。それを受けて単元の前半では、思春期における体の成長について調べ理解していく。単元の後半では、より

よく成長していくためにどのように運動，食事，休養・睡眠をとればよいかを調べ，よりよく成長していくための取組としてまとめ，発表していく。そして，友達を取組を聞いた中で得た知識をもとに，自分の生活に取り入れられそうな活動を選択していく。このようにして身に付けた知識や技能は，生涯にわたって心身の健康を保持増進するための素地を養う上で大切であると考えた。

単元を貫く課題 成長って何だろう

【「問い」に対して課題追求している姿】

問い 体が成長すると目に見えるところ・目に見えないところで，どのような変化が起きるのか。
→目に見える部分や目に見えない部分の発育・発達を知り，よりよい成長をするための自分の生活の課題を見つける姿。

問い 体がよりよく成長するためにはどうすればよいか。
→体の発育・発達には適切な運動，食事，休養・睡眠が必要であることを理解し，自分自身の課題解決に向けて考え，生活に生かそうとする姿。

4 研究の実際と考察

(1) 「体が成長すると目に見えるところ・目に見えないところで，どのような変化が起きるのか。」を追求する姿

第1時では，1年生の時と4年生の時の姿を写真で比べ，自分の体が成長していることを確認した。まず，1年生と大人のシルエット図を比べることで，大人になるにつれて見た目の変化が現れることに気づき，どのように変化するかを知りたいという思いをもった。次に，「成長すると，体にどのような変化が起こるのか」について調べることにした。さらに，成長に伴う体の変化について確認する中で，男女に共通して起こる変化，それぞれに起こる変化があることに気付いた。最後に，体つきに特徴が現れる時期や変化の仕方には個人差があることを共有した。そこで，成長すると変化するのは体の目に見えるところだけなのかという疑問をもち，成長すると体の目に見えないところはどのように変化していくのか学習したいという意欲を高めている様子であった。

第2時では，目に見えない体の変化について「体の働きの変化」と「心の変化」を調べた。調べていく中で，成長すると体の働きと心に変化が起こり，時期や変化の仕方についても前時同様に個人差があることに気付いた。教師から「何もしなくても勝手に成長するのかな。」と問いかけると，「何もしなかったら成長しない。」という反応があり，何もしなくても勝手に成長するのではなく，普段の生活で行っている「運動」「食事」「休養・睡眠」に関係があることに気付くことができた。

(2) 「体がよりよく成長するためにはどうすればよいか。」を追求する姿

第3・4時では，「運動」「食事」「休養・睡眠」から自分が興味をもったり，自分自身の生活に必要なだと考えたりしたテーマについて教科書や教師が準備した資料を使って調べた。グループで発信方法について計画を立てる際に，「どうしたらやってみたくなる?」「それって本当に続けてできるの?」などと教師が声掛けをしていくことで，「気軽に続けることができるようにしよう。」「楽しみながら取り組むことができるようにしよう。」など，より相手を意識した伝え方を考えることができた。動画を撮影する際には，役割分担をするなど主体的に活動する姿【写真2】がみられた。

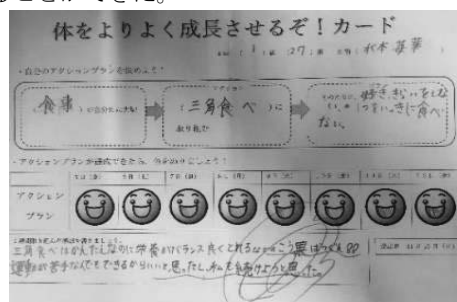


【写真2：グループで相談している様子】

第5時では、友達が作った動画を見て、自分に合ったよりよい成長につながる生活習慣・行動を考える活動を行った。子ども達は自分の生活を振り返り、「運動はあまりできていないから毎日30分は歩こう」「好き嫌いをせずに食べるためにも、一口でも良いから食べるように心がけたい」といったそれぞれの生活に合ったアクションプランを考えることができた。

また、授業後に「よりよく体を成長させるぞ！カード」を使って、毎日実践できたかを確認することで、よりよい成長につながる生活習慣・行動を継続していこうという思いをもつ姿が見られた。

さらに、1週間取り組んだ後の感想では、「自分で意識して三角食べをすることができてよかった。これからも続けていきたい。」といったアクションプランを実行した後に、大きく行動変容する姿が見られた。



5 成果と今後の課題

(1) 成果

- ・ 「知る」、「調べる」、「まとめる」、「発信する」、「生かそうとする」という学習配列を工夫することで、一人一人が課題を自分事として捉え、活動することができていた。この学習活動の流れは他の学年にも取り入れることができると感じた。
- ・ 教科書に書かれている内容を教師がただ読んで説明するのではなく、「単元を貫く課題」を設定し、その解決に迫るための「問い」を提示し、学習を仕組んでいくことで、子ども達が意欲的に活動することができた。
- ・ アクションプランを設定することで、客観的に自分を見つめ、自分の生活に生かそうとすることができた。
- ・ 発問を工夫することで、子どもの思考を深め、もっと知りたい、もっと考えたい、もっと伝えたいと子ども達が主体的に学ぼうとする姿が見られた。
- ・ 自分が興味あるものや必要だと思うものを選択し、グループに分かれることで、自己の課題に進んで向き合うことができていた。

(2) 課題

- ・ 調べる際の資料についてさらに検討していく必要があると感じた。図書資料だけでなく、養護教諭や栄養教諭などとも連携を図りながら、子ども達がより詳しく調べていけるようにしていきたい。
- ・ グループでよりよい生活習慣・行動を考える際に、自分達が普段していない行動（筋トレや栄養バランスの取れた食事を作るなど）ばかりに注目していたので、普段自分たちが行っている行動（入浴や散歩など）の中にも生かせるものがあるという価値付けをしていけばよかった。
- ・ アクションプランを立てた後の意欲・行動の継続に個人差を感じた。一日の大半は家庭で過ごすため、学校だけで終わるのではなく、家庭とも連携し、意欲・行動が継続していくような手立てを考えていきたい。

(3) その他の課題

- ・ 児童の実態によって、発信方法が異なる。どの学級でも同じように行うのではなく、発達段階に応じた発信方法の工夫について考える必要があると感じた。
- ・ 保健に関する指導時数が限られている中で、ICT機器の取扱いについてなど、他教科との横断的な関わり方を考える必要があると感じた。

	1	2	3・4	⑤
	単元を通した課題 体がよりよく成長するためにはどうすればよいか。			
学習活動	<p>1 前学年までの学習を確認する。</p> <p>問い 体が成長すると目に見えるところで、どのような変化が起きるのか。</p> <p>2 子どもと大人のシルエットを見て、大人になるにつれて、体は変化し、男女の違いが顕著になることに気付く。</p> <p>3 思春期に起こる目に見える変化を調べる。</p> <p>4 次時への見通しをもつ。</p>	<p>1 前時の復習をする。</p> <p>問い 体が成長すると目に見えないところで、どのような変化が起きるのか。</p> <p>2 思春期にあらわれる体の内面の変化について知る。</p> <p>3 思春期にあらわれる心の変化について知る。</p> <p>4 振り返りをする。</p> <p>5 単元を通した課題を確認する。</p> <p>6 運動・食事・休養、睡眠の効果を確認する。</p> <p>7 運動・食事・休養、睡眠別にグループ分けし、次時への見通しをもつ。</p>	<p>1 単元を通した課題を確認する。</p> <p>問い 体がよりよく成長するためにはどうすればよいか。</p> <p>2 追究の仕方の見通しをもつ。(教科書、図書資料、養護教諭へのインタビューなど)</p> <p>3 グループ内で意見を交流する。</p> <p>4 ロイロノートを使って調べたことを動画にまとめる。</p> <p>(例)</p> <ul style="list-style-type: none"> 運動グループ(サイコロで運動を決める。など) 食事グループ(1日3食とる。バランスの良い食事をとる。など) 休養・睡眠グループ(朝日を浴びるために早寝早起きする。など) 	<p>1 単元を通した課題を確認する。</p> <p>2 グループで調べたことを発表し、共有する。</p> <p>(例)</p> <ul style="list-style-type: none"> 運動グループ(サイコロで運動を決める。など) 食事グループ(1日3食とる。バランスの良い食事をとる。など) 休養・睡眠グループ(朝日を浴びるために早寝早起きする。など) <p>3 よりよく成長するために自分ができていることを書く。</p> <p>4 振り返りをする。</p>
		○よりよい成長	○適切	【追究のための手がかり】 ○バランス
学びの姿	・目に見える体の発育・発達について課題を見つけ、その解決に向けて考え、発言したり伝えあったりしている姿。	・目に見えない体の発育・発達について課題を見つけ、その解決に向けて考え、発言したり伝えあったりしている姿。	・体の発育・発達には適切な運動、食事、休養および睡眠が必要であることを理解し、自分自身の課題解決に向けて考え生活に生かそうとする姿。	・体が健康によりよく成長するための方法について聞き、自分に合ったものを考え、学んだことを自分の生活の中で実践しようとする姿。(行動変容)
主な教師の支援	<p>・1年生の体と大人の体をシルエットにしたものを提示することで、自分の体は成長するとともに男女の体つきに違いが現れることに気づくことができるようにし、「成長するということについて考えた」という思いをもつことができるようにする。</p> <p>・目に見える変化だけでなく、目に見えない変化に目を向けさせることで、よりよく成長していくためにはどちらも大切であることを理解することができるようにする。</p> <p>・食事、運動、休養・睡眠の中から、自分がよりよく成長するために必要だと思う課題を自由に選んで調べていくようにすることで、意欲的に活動に取り組むことができるようにする。</p>		<p>・教師が手本となる動画を示すことで、見通しをもって活動に取り組むことができるようにする。</p> <p>・児童がどんな動画にするかを考える場面では、「どうしたらやってみたくなる?」「どうしたら続けたくなる?」と問うことで、児童の試行錯誤を促すことができるようにする。</p> <p>・教科書の資料や図書の本など、食事、運動、休養・睡眠に関する様々な資料を用意しておくことで、相手がやってみたくなるような工夫をすることができるようにする。</p> <p>・授業後に「よりよく体を成長させるぞ!カード」を活用することで、自分自身にあった「運動・食事・休養、睡眠」に対する実践意欲が継続できるようにする。</p>	
評価計画	ア, イ, カ	ア, イ, キ, サ	ク, サ	ウ, ク, シ

児 童 表 彰

1 水泳能力優秀児童表彰基準と表彰手続き

ア 表彰基準

泳 法	男 子		女 子	
	自 由 形	平 泳 ぎ	自 由 形	平 泳 ぎ
1 級	45 秒	55 秒	48 秒	60 秒
2 級	50 秒	60 秒	53 秒	65 秒
3 級	55 秒	65 秒	58 秒	70 秒

(50m)

1 級該当者を表彰する。

プール未設置校では、500m完泳者を表彰する。

イ 実施後の処置

- 支部・地区単位の記録会で1級該当児童について、その種目、タイム、児童名を各郡市理事へ報告する（自由形、平泳ぎどちらか一方で可）
- 表彰記録該当の児童には、県小体連制定のバッジを授与する。（令和2年度より全額県小体連が負担。）
- 各支部理事へのバッジ個数の報告締め切り **8月4日**
- 各支部理事は、**8月18日**までにHPの実施報告書にてバッジ個数を報告する。
- バッジは各支部の水泳の担当者へ郵送する。

- 理事への報告形式は、次項のようにする。

水泳記録報告書

学校名 ()

報告責任者 ()

—— 50m自由形 ——

学年	児童名	性別	男子基準					女子基準					
			39.9 秒まで	40.0 ~ 40.9	41.0 ~ 41.9	42.0 ~ 42.9	43.0 ~ 43.9	44.0 ~ 45.0	42.9 秒まで	43.0 ~ 43.9	44.0 ~ 44.9	45.0 ~ 45.9	46.0 ~ 46.9

—— 50m平泳ぎ ——

学年	児童名	性別	男子基準					女子基準					
			49.9 秒まで	50.0 ~ 50.9	51.0 ~ 51.9	52.0 ~ 52.9	53.0 ~ 53.9	54.0 ~ 55.0	54.9 秒まで	55.0 ~ 55.9	56.0 ~ 56.9	57.0 ~ 57.9	58.0 ~ 58.9

※ 記録の $\frac{1}{100}$ 秒は切りすてて記入する。

※ 該当の記録の欄に○印をつける。

※ 表彰基準記録改訂の参考資料にするので、正確に記入する。

2 陸上運動優秀児童表彰基準と表彰手続き

ア 標準記録

段階	100m (秒)		60mハードル(秒)		走り幅とび(m)		走り高とび(m)		ソフトボール投げ(m)	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
5	14" 8	15" 6	10" 8	11" 5	4.00	3.60	1.20	1.15	50	35
4	15" 3	16" 1	11" 2	11" 9	3.75	3.35	1.15	1.10	46	31
3	15" 9	16" 7	11" 6	12" 3	3.50	3.05	1.05	1.00	42	27
2	16" 6	17" 4	12" 0	12" 7	3.25	2.80	1.00	0.95	38	23
1	17" 4	18" 2	12" 4	13" 1	3.00	2.50	0.95	0.90	34	19

- 各学校では、1学期に新体力テストを実施して、自校の実態を知ったり各児童の能力を確認したりして、2学期に陸上運動記録会を実施して認定することが望ましい。
- 新型コロナウイルス対応で、運営等を工夫している支部も多いかと思えます。その中で、100m走を50m走に変更して実施する支部においては、優秀児童表彰の基準「段階5」は以下のようにします

【50mに変更する場合】 男子 7,9秒 女子 8,3秒

イ 実施後の処置

- 支部・地区の記録会で標準記録5の段階を突破した児童に、県小体連制定のバッジを授与する。(令和2年度より全額県小体連が負担)
1人で2種目以上突破した児童についても、バッジは1個にとどめる。
- 各支部理事へのバッジ個数の報告締め切り **11月2日**
- 各支部理事は、**11月10日**までにHPの実施報告書にてバッジ個数を報告する。
- バッジは各支部の陸上運動の担当者へ郵送する。

ウ 実施上の留意事項

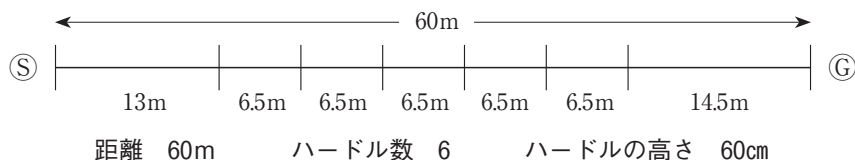
新体力テストと違って、学習時に指導した成果を確かめるものであるから、能力だけでなく競技としての測定であることに留意してほしい。例えば、今までの報告の中には、走り幅跳びを踏み切り線から測定せず、踏み切った位置から測定したと思われるものがある。運動能力を見るのではなく、「踏み切り線に足を合わせてとぶ」という学習の結果を見るのであるから必ず踏み切り線から厳重に測定してほしい。

エ 実施要領

1 100m走

- できるだけ直線路を使用してほしいが、やむを得ぬ場合は曲走路セパレートコースを作してほしい。
- スタートイングブロックを使用することを原則とし、合図はピストルを使う。

2 60mハードル

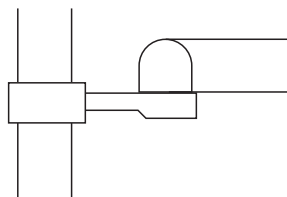


3 走り幅跳び

- 試技数は3回
- 踏み切り線から着地までの最短距離を測定する。

4 走り高跳び

- 同一の高さの試技は3回まで。
- バーは正式に横にかける。(右図参照)
- 高さはバーの最低部(中央部)より地面までをその都度測定する。



5 ソフトボール投げ

- 試技数は2回で、よいほうをcm単位で計測する。
- 使用ボールは、1号球(外周26.2cm～27.2cm、重さ136g～146g)

地区別記録会（水泳・陸上運動）の実施について（R5）

1 概要

標記記録会は、岡山県教育委員会、岡山県小学校体育連盟等が共催して実施するものである。毎年、記録会実施に向けて、県教委から約30万円の助成金を受けている。そのため、実施後、各ブロック（地区）から県小体連に報告書の提出を求め、県小体連はそれを取りまとめ、県教委に実施報告書を提出している。

県教委からの助成金に加え、県小体連で予算を計上し、県内のブロック（地区）で開催する際の支援としている。働き方改革、熱中症・新型コロナウイルス感染症等への対応により、今までのブロック開催から、市町村単位、あるいは中学校区単位や自校開催の記録会へと移行してきた。県小体連としては、開催の規模が変わっても今まで通り、助成金により各支部の活動を支援することとしている。また、記録会実施の際、役員の先生方へのけがへの補償のため、県小体連で保険加入を行っている。

なお、次年度への繰越金額が多くなっていたことが本連盟の課題となっていたことから、令和3年度に、水泳・陸上記録会の助成金の額を230万円に増額した。しかし、今後新型コロナウイルスへの対応が変わり、県小体連の活動が通常通り再開されるようになった際には、予算を組み直す中で、記録会への助成金額についても再度検討することになる。

2 令和5年度の対応

令和3年度の理事会の場で、「助成金については、記録会への活用でなくても体力向上等での活用での報告でもよい」と説明してきた。しかし、令和3年度末の報告書を県教委にあげる際に、県教委から「記録会開催への助成金を使用している支部が少ないのはなぜか」と指摘を受けた。

令和5年度についても、令和4年度と同様に水泳記録会・陸上記録会（各校開催含）を開催した場合、決算報告には、「県小体連の助成金を使って、●●を購入する一部にあてた」ということがわかるようお願いしたい。

具体的には、「R5水泳・陸上予算書（エクセル）」にシート2つの中の「R5予算書支部送付用入力シート」でご確認願います。各支部には、県小体連から助成金を送付していますが、そのうちの県教委分が分かるように、黄色セルに赤色で金額を示しています。

（1）具体的な対応

令和5年度も令和4年度同様に新型コロナウイルス感染症への対応により、記録会の開催が困難な地区もあると考えている。そこで、昨年度同様、次のような対応をおこなう。

①記録会を実施した場合は、実施報告書と領収書を事務局に提出する。

②未実施の場合も、助成金の返却を求めない。

※県内各地域の児童へ還元できる体育的活動や研究の一助への活用で対応する。

③水泳・陸上運動記録会両方とも未実施の場合でも、合わせた金額で、各支部の体育的活動や研究の一助への活用なら対応可能とする。

※未実施の場合、どのような助成金活用が各支部の体育的活動や研究の一助となるのか、水泳・陸上の担当者だけでの判断ではなく、各支部の支部長・理事長・研究担当者等とよく協議した上で有効活用する。

※なお、体育的な活動や研究の一助への活用が難しいと判断した支部は、返金する。

④水泳記録会を中止した場合、その助成金を陸上記録会の助成金と合わせて運営等に使用することを可能とする。(陸上記録会中止の場合も同様とする。)

⑤コロナ禍の影響により、2学期に学校行事が集中することが予想されるが、陸上記録会を1学期に実施することを可能とする。

⑥規模(ブロック・市町村・中学校区・自校)は違っても、岡山県小学校体育連盟の助成金を水泳記録会や陸上運動記録会で使用する場合、開催要項の主催に「岡山県教育委員会」「岡山県小学校体育連盟」を必ず明記する。R2に市町村規模や中学校区、自校開催の記録会の開催要項に明記されていない地区が多かったので再度確認願います。

※市町村教育委員会の負担金のみで実施する場合は主催への明記は求めない。

⑦水泳・陸上記録会の助成金を事務局が各支部に入金した場合、支部理事長へメールで連絡を入れる。理事長等は各支部の口座への入金確認を行い、入金のわかるページをデジカメ等で撮影し、県小体連HPの申請フォームで送信する。適切な会計処理のためにもご協力願います。

これができていない支部が多かったので、今年度はよろしく願います。

3 令和5年度地区別記録会の実施に向けて

(1) 水泳・陸上運動記録会の**実施の前に**

①「令和5年度 岡山県小学校体育連盟水泳・陸上記録会・体育研究会・実技講習会の予定」(エクセル)の各支部の「水泳記録会」「陸上記録会」等の欄に各支部が入力する。

※各支部理事長が全ての項目に入力したうえで、事務局にデータを返すことで、水泳と陸上運動記録会の開催予定を把握できる。

【必要な項目】(実施・未実施)(実施する場合、実施規模・実施予定日・実施会場)

②「令和5年度岡山県小学校体育連盟地区別記録会**予算書**」(エクセル)の各支部の欄に金額を入力して、理事長が事務局にデータを返す。

※水泳・陸上の記録会を実施した場合、上述のように、県小体連の助成金を●●購入の一部に使用予定がわかるように予算の時からいれておいてほしい。

※水泳と陸上両方実施する場合、水泳か陸上かどちらか実施する場合、どちらも未実施で体育授業の充実か体力向上に助成金を活用する場合等により入力異なる。

★**実施前に行うことは、以上で終了。**

(2) 水泳・陸上運動記録会を**実施した場合**

- ①実施報告 → 県小体連HPの申請フォームにより入力
※開催期日, 会場, 優秀児童バッジ数, バッジ担当者の学校等
- ②収支決算書 → 「令和5年度岡山県小学校体育連盟地区別記録会決算書」(エクセル)の各支部の欄に金額を入力して, 理事長が事務局にデータを返す。
※実施前に入力した予算書に加筆修正で対応可能
※水泳・陸上どちらかに使用したでも可
- ③領収書 → 【様式4】にコピーを貼り, 事務局にFAX送付かデータ送信する。
※県小体連の助成金を使用した関係の資料のみでよい。
※複数あれば2枚, 3枚になってよい。**1枚に小さな字での報告は不可。**
- ④開催要項 → 送付なし。R3から「開催要項」の提出を求めないことにしています。

★提出書類の締め切り 水泳記録会 8月末までに提出 陸上記録会 11月末には提出

※県教委への報告が遅れると, 次年度の補助金がでない可能性がある。

(3) 水泳・陸上運動記録会を**実施しない場合**

- ①各支部において, 助成金の使用用途について, 支部長・理事長・記録会担当者・研究担当者等で県小体連の意図に沿った活動や購入を検討する。
- ②購入するもの等について, 心配な場合, 地区別記録会担当 竹山(岡山市立御南小学校)まで, Faxまたは, e-mailで問い合わせる。※電話での質問は原則禁止とする。
- ③県小体連が助成金使用で認める取組は次のように考える。

★「**児童の体力の向上に寄与する**」「**体育授業の研究に寄与する**」

上記の趣旨に沿っていれば広く活用可能にする。例をいくつか紹介するが, 例にとらわれるものではない。あくまで例として参考にする。

(例)【児童の体力の向上に寄与する】

- ・チャレンジランキングへの参加を促すため, 学校に長縄を配付した。
- ・管内の小学校の投能力に課題があるので, 学校にジャベリックボールを配付した。
- ・体力向上の取組の参考になる冊子を購入し, 学校に配付した。
- ・管轄の小学校児童数体力向上のカードを配付するために用紙代に活用した。
※体力向上に関係するものを購入してもよいし, 資料代になってもいいです。

【体育授業の研究に寄与する】

- ・現在支部で研究している分野の本を購入し, 学校に配付した。
 - ・授業で効果的と支部で話をしてきたカードを児童数印刷するための用紙代に活用した。
- ※書籍購入も可能ですし, 各支部で必要なものをご購入いただいで結構です。

【お願い】

体育的な活動と関係ないものを助成金で購入し、各学校で活用することはおやめください。なお、秋に陸上運動記録会を開催することになり、児童の安全を考えて、会場設置用で「アルコール消毒液」を購入したという場合には、運営面で必要ですから、何も問題はないと考えます。

各支部でそのあたりの話をしっかり協議した上での購入をお願いします。担当者みの判断はおやめください。

④助成金を記録会の運営以外に使用する場合、次のようなことに留意する。

A：助成金を11月30日までに必ず活用する。

※陸上運動記録会終了時点を想定して締切日を設定している。

B：助成金を何に活用したか把握するため、領収書のコピーを提出する。

※【様式4】に貼って、Faxかe-mailで送付する。

※領収書をデジタルカメラで撮影し、それを【様式4】に取り込み、その【様式4】をデータで送付することも可能とする。

※印字が薄いとわかりにくいので、コピーの場合、印字を濃くした上で、送付する。

※領収書の中身が事務局で把握できるように、縮小や拡大、印字の濃度を濃くするなど工夫する。

1枚での報告をお願いしたいが、事務局で把握が難しいような報告にならないように、無理な場合複数枚送付をお願いします。

C：県小体連からの助成金と各支部の予算を合わせた上での購入等も可能とする。

その場合は、そのことがわかる領収書のコピーを送付し、『このうち●円を県小体連の助成金で対応した』と明記する。

※何枚もの送付を避けたいので、必要などころのみを送付する。

※不明な点があれば、事務局竹山から放課後連絡を入れることとする。

D：助成金については、原則使い切る形で対応する。

※端数がでて、用紙代等の購入で対応できなくて困る場合、各支部の運営費に活用する。

対応に苦慮する場合は、その旨をFaxかe-mailで御南小学校竹山まで連絡を入れる。

必要があれば、竹山の方から連絡をする。

E：優秀児童へのバッジ送付への対応について

【対象者】各地区での記録会において、1級の表彰基準を突破した児童とする。

※記録会実施の規模については、市町村教委単位、中学校区単位等様々である。

「どのような大会までなら申請を出してよいのか?」「校内記録会はどうするのか?」

「欠席した児童も申請してよいかどうか?」と、事務局への問い合わせが毎年あるが、

全て主催する各支部の小体連で協議して判断する。

※表彰基準については、毎年発行している機関誌「体育情報」や県小体連のHPを参照のこと。

※新型コロナウイルス感染症対応により、校内記録会や体育授業での記録であってもバッジ授与の対象とする。

- 【バッジ送付の流れ】★報告が早いほど各校の児童がバッジを名札等に着けることができる。
- 「1」各支部の水泳・陸上担当者等は、【優秀児童数】に間違いがないことを確認する。
- 「2」各支部の水泳・陸上担当者等は、記録会の実施報告を県小体連HPの申請フォームで行う際に、「優秀児童数」「担当者・学校名」等を入力する。
- 「3」県小体連事務局は各支部の入力したバッジ数等を確認し、業者（万京）へ報告する。
- 「4」県小体連事務局から送付されたバッジ数を、業者（万京）が確認し、それぞれの支部の担当者へバッジを送付する。

以上のような流れになりますから、各支部の担当者は、記録会終了後、すぐに報告願います。

【担当者の方へ】

※【県小体連HPの申請フォーム】で入力する際には、各支部からの入力となります。ただし、倉敷は4支部、岡山は5区からの入力を可とします。

各支部からの小学校毎の入力は行わないでください。

※万が一、追加が出た場合は、事務局竹山（御南小学校）までFax送付願います。追加分は、後日事務局から送付します。

【送付先】県小体連事務局竹山（御南小） Fax番号（FAX 086-243-2461）

※業者（万京）がそれぞれの支部へ送る際に必要ですので、

「支部名・担当の先生の名前・学校の住所」がわかるように、入力願います。

4 水泳・陸上運動記録会に係る提出書類の流れについて

(1) 提出・報告関係等一覧

	内 容	様 式	締め切り	担当者
①	助成金入金通帳確認	県小体連HPの申請フォームで入力	入金後1週間以内	西田(吉備小)
	【記録会実施前】			
②	「令和5年度岡山県小学校体育連盟水泳・陸上記録会・体育研究会・実技講習会の予定」	様式1 (エクセル入力)	5月31日(水)	合田(芳田小)
③	「令和5年度岡山県小学校体育連盟地区別記録会予算書」	様式3 (エクセル入力)	6月13日(火)	竹山(御南小)
	【記録会実施後】			
⑤	実施報告	県小体連HPの申請フォームで入力	水泳： 8月18日(金) 陸上： 11月8日(水)	竹山(御南小)
⑥	「令和5年度岡山県小学校体育連盟地区別記録会決算書」	様式3の予算書に上書き(エクセル入力)		竹山(御南小)
⑦	実施開催要項(1部)	R3年度から必要無		
	【記録会未実施の場合】③⑥の予算書、決算書は必ず作成し、竹山(御南小)まで送付。体力向上、体育授業研究等に使用した助成金の領収書を⑧様式3により事務局へ送付。			
⑧	助成金領収書	様式4		竹山(御南小)

(2) 提出書類・報告の流れ

① 5月下旬 総会終了後、県小体連事務局から 要項等を各支部理事長にデータで送付

② 6月4日 各支部記録会の【様式3】「予算書」(エクセル)を事務局に送付する。

※予算書であることから、昨年度の決算をもとに大まかな数値を入力

③記録会終了後 担当者は「実施報告」「収支決算書」を作成する。

「実施報告」：県小体連HPの申請フォームにより入力

「収支決算書」：収支予算書を参考に、支出した領収書を確認して【様式3】決算書(エクセル)に入力し、事務局にデータで送付する。

※関係の領収書を【様式4】に貼り付け、事務局に送付する。

※担当者は県小体連事務局竹山(御南小)まで送付(Fax)もしくは

(e-mail) minans28@city-okayama.ed.jp

※ブロックによっては、支部を統括する担当者を決めているところもあります。予算書、決算書等の報告は各支部毎にお願いします。(ブロック責任者が支部をまとめてブロックでの報告にする必要はありません。)

※各支部の小学校毎の報告をそのまま数枚にわたって送付しないでください。

事務局の書式に合わせて報告願います。これまでの各支部の書式で送付されるケースがまだ見られますので、確認願います。

【参考資料】 予算書(エクセル)への入力

			1 収入の部				
番号	支部名		県小体連 負担金	地区小体 連負担金	市町村教 育委員会 負担金	雑収入	合計
1	岡山	陸上	165000	0	0	0	165000
2	玉野	陸上	60000	0	0	0	60000
3	備前	陸上	60000	0	0	0	60000
4	和気	陸上	60000	0	26950	0	86950
5	赤磐	陸上	60000	0	62000	0	122000
6	瀬戸内	水泳	150000	0	0	0	150000
		陸上	150000	0	0	0	150000
8	倉敷 (倉敷)	陸上	68800	100000	461000	0	629800

市町村教育委員会が負担してくれることを確認して計上してください。わからない場合はのせない。

2 支出の部											
1 需用費	印刷費	会議費	報奨費	消耗品費	雑費	2 旅費	3 役員費	4 賃借料 使用料	5 雑費		合計
									会場 使用料	器具 運搬費	
115000	0	20000	0	60000	35000	0	0	50000	50000	0	165000
60000	0	0	0	30000	30000	0	0	0	0	0	60000
60000	0	0	0	30000	30000	0	0	0	0	0	60000
86950	5000	5000	20000	50000	6950	0	0	0	0	0	86950
112000	2000	0	0	16000	94000	0	0	10000	10000	0	122000
150000	50000	0	0	100000	0	0	0	0	0	0	150000
150000	50000	0	0	100000	0	0	0	0	0	0	150000
68800	5000	0	0	50000	13800	561000	0	0	0	0	629800
48000	0	0	0	24000	24000	0	0	0	0	0	48000
22400	2000	0	0	0	20400	100000	0	0	0	0	122400

【参考資料】各支部への県教委分の助成金のわかるシート

令和3年度岡山県小学校体育連盟地区別記録会予算書

1 収入の部												2 支出の部											
番号	支部名	県教委 員会金	県 民体育 連盟金	地区小中 学連盟金	市町村教 育委員会 員会金	雑収入	合計	1 需用費	印刷費	会議費	報奨費	消耗品 費	雑費	2 旅費	3 役員費	4 賃借料 使用料	5 雑費		合計				
																	会場 使用料	器具 運搬費					
1	岡山	40000	35000	0	0	0	165000	115000	0	20000	0	60000	35000	0	0	50000	50000	0	165000				
2	玉野	10000	50000	0	0	0	60000	60000	0	0	0	30000	30000	0	0	0	0	0	60000				
3	備前	10000	50000	0	0	0	60000	60000	0	0	0	30000	30000	0	0	0	0	0	60000				
4	和気	5000	35000	0	26950	0	86950	86950	5000	5000	20000	50000	6950	0	0	0	0	0	86950				
5	赤松	5000	35000	0	62000	0	122000	112000	2000	0	0	16000	94000	0	0	10000	10000	0	122000				
6	瀬戸内	15000	35000	0	0	0	150000	150000	50000	0	0	100000	0	0	0	0	0	0	150000				
10	倉敷(倉敷)	30000	38000	100000	293800	0	462600	68800	5000	0	0	50000	13800	393800	0	0	0	0	462600				
9	倉敷(玉島)	10000	38000	50000	24800	0	122800	48000	0	0	0	24000	24000	74800	0	0	0	0	122800				
10	倉敷(玉島)	5000	37400	30000	100000	0	152400	22400	2000	0	0	30000	20400	130000	0	0	0	0	152400				
11	倉敷(総・美)	5000	31000	30000	50980	0	96980	24300	2000	4000	0	11000	7300	67600	0	5000	5000	0	96980				
12	総社	10000	18000	0	0	0	28000	28000	0	0	0	14400	14400	0	0	0	0	0	28000				
13	瀬口	10000	35000	0	0	20000	95000	95000	0	2000	40000	5000	48000	0	0	0	0	0	95000				
14	笠岡	10000	27500	300110	106000	0	443610	427610	6000	4000	67000	397500	13110	3000	3000	10000	10000	0	443610				

この金額が、各支部へ送付した助成金のの県教委分です。

【例】仮に岡山市が記録会使用のために消耗品を6万円使用した場合、その領収書を添付し、その中で県教委分の4万円を使用しましたとコメントを入れて、事務局に送付していただければ結構です。

こちらのシートを
みてください。

岡山県小学校体育連盟規約

第一章 総 則

(名称および所在)

第1条 この連盟は岡山県小学校体育連盟と称する。

第2条 この連盟は事務局を会長または理事長所属の学校内に置く。

第二章 目的および事業

(目的)

第3条 この連盟は小学校における体育の健全な発達を図ることを目的とする。

(事業)

第4条 この連盟は前条の目的達成のため下記の事業を行う。

- (1) 小学校体育指導者の資質向上に関する研究会・講習会・講演会などの開催
- (2) 小学校体育に関する情報・資料の交換
- (3) 小学校体育に関する調査
- (4) 体育諸団体との連絡
- (5) その他本連盟の目的達成に必要な事項

第三章 組 織

第5条 この連盟は県下の小学校をもって組織するものとし、各郡市に支部を置く。支部の規約は支部において別に定める。

第6条 この連盟は専門部を置くことができる。

第四章 役 員

(役員)

第7条 この連盟に下記の役員を置く。

- | | | | |
|-------------|-----|---------------|-----|
| (1) 会 長 | 1 名 | (2) 副 会 長 | 3 名 |
| (3) 理 事 長 | 1 名 | (4) 副 理 事 長 | 若干名 |
| (5) 理 事 | 若干名 | (6) 監 事 | 2 名 |
| (7) 研 究 部 長 | 1 名 | (8) 研 究 副 部 長 | 若干名 |
| (9) 会 計 | 若干名 | (10) 書 記 | 若干名 |
| (11) 顧 問 | 若干名 | | |

(役員を選出方法)

第8条 会長・副会長、理事長・副理事長および監事は、理事会において選出する。

第9条 理事は次のとおりとする。

- (1) 各支部より1名選出したもの
- (2) 本県体育界の学識経験者の中から理事会において推挙したもの
- (3) 専門部より推挙したもの

第10条 研究部長・研究副部長、会計および書記は会長が委嘱する。

第11条 顧問は、理事会において推薦し、会長が委嘱する。

(役員の特権)

第12条 この連盟の役員の特権は次のとおりとする。

- (1) 会長は本連盟を代表し会務を統轄する。
- (2) 副会長は会長を補佐し、会長事故あるときはその職を代理する。
- (3) 理事長は会務の処理に任ずるとともに、会長・副会長事故あるときはその職を代理する。
- (4) 副理事長は理事長を補佐し、理事長事故あるときはその職を代理する。
- (5) 理事は理事会を組織し、本会の重要事項を審議し決議する。
- (6) 監事は本連盟の会計および業務執行の状況を監査する。
- (7) 研究部長・研究副部長は、副読本の編集および研究活動の推進を司る。
- (8) 会計は本連盟の会計を司る。
- (9) 書記は本連盟の業務の記録を司る。
- (10) 顧問は重要事項に関し、会長の諮問に応ずる。

第13条 役員の任期は1カ年とする。ただし、重任を妨げない。

2. 役員に欠員を生じたときは補充することができる。この場合の任期は前任者の残任期間とする。

(役員的身分および費用弁償)

第14条 役員はすべて名誉職とする。ただし、その任職のために要した費用は実費弁償を受けることができる。

第五章 機 関

(機 関)

第15条 この連盟に理事会を置く。

(理事会の運営)

第16条 理事会はこの連盟の意思決定機関であって、理事で構成し会長が招集する。

2. 理事会は理事の過半数で成立し、議事は出席理事の3分の2以上の賛成をもって決めることを原則とする。

3. 理事会は、審議決定するための原案を作成するために理事会準備委員会を設置することができる。なお、理事会準備委員会は、会長・副会長・監事・理事長・副理事長で組織する。

第17条 理事会は次の事項を審議決定する。

- (1) 規約およびこれに基づく諸規定の制定並びに改廃
- (2) 役員の選出および承認
- (3) 予算及び決算
- (4) 事業の運営の基本方針
- (5) その他この運営に必要な事項

第六章 会 計

(経 費)

第18条 この連盟の経費は著作権料その他の収入をもってこれにあてる。

第19条 この連盟の会計年度は、毎年5月1日に始まり翌年4月30日に終わる。

附 則

この規約は昭和58年5月1日から施行する。

(昭和60年、平成2年、3年、4年、20年、令和2年一部改訂)

岡山県小学校体育連盟表現専門部規定

第1条 この部は、岡山県小学校体育連盟表現専門部と称する。

第2条 この部は、岡山県小学校体育連盟規約第6条にもとづいて組織されたもので、表現運動の指導について研究し、その指導力の向上を目的とする。

第3条 この部に次の役員をおく。

- | | | | |
|----------|-----|---------|-----|
| (1) 部長 | 1名 | (2) 副部長 | 2名 |
| (3) 常任幹事 | 若干名 | (4) 幹事 | 若干名 |
| (5) 書記 | 2名 | (6) 会計 | 1名 |

第4条 この部の役員選出は、次のとおり行う。

- (1) 部長、副部長は、幹事会において選出する。
- (2) 常任幹事は、岡山ブロック、津山ブロックは2名ずつ、倉敷ブロック（旧高梁教育事務所を含む）は3名、幹事より互選する。
- (3) 幹事は、各支部より1名選出する。（性別は問わない。）
- (4) 書記、会計は、部長が委嘱する。

第5条 役員の任務は、次のとおりとする。

- (1) 部長は、本専門部を代表し、会務を統轄する。
- (2) 副部長は部長を補佐し、部長に支障があるときは、その職を代行する。
- (3) 常任幹事は常任幹事会を組織し、会務につき審議する。
- (4) 幹事は幹事会を組織し、この部の重要事項を決議する。
- (5) 書記、会計は、会務の処理、会計事務にあたる。

第6条 役員の任期は、1カ年とする。ただし、重任を妨げない。役員に欠員を生じたときは、補充することができる。この場合の任期は、前任者の残任期間とする。

第7条 常任幹事会は、規約および幹事会の決定に従って、この部会の事務を執行するほか、緊急の場合は、幹事会の職務を代行することができる。ただし、この場合は、次の幹事会において承認を求めなければならない。

第8条 幹事会は、次の事項を審議決定する。

- (1) 役員の選出および承認
- (2) 事業計画
- (3) その他この会の運営に必要な事項

第9条 この部の経費は、岡山県小学校教育研究体育部会および岡山県小学校体育連盟よりの支出をもってこれに当てる。

附則 支部は、各郡市におく。ただし、岡山市は5支部、倉敷市は4支部扱いとする。

この規定は、平成21年5月28日より実施する。（令和2年一部改訂）

※「岡山ブロック」は旧岡山教育事務所、「倉敷ブロック」は旧倉敷教育事務所（旧高梁教育事務所を含む）、「津山ブロック」は旧津山教育事務所

岡山県小学校体育連盟役員選考にかかわる内規

役員選考

- ：理事会総会の当日、役員選考委員会において選考する。
- ：役員選考委員会は、各支部理事長23名と理事長1名の24名で構成する。

〈関係規約〉

岡山県小学校体育連盟規約 第4章 第7～11条

- 1 理事会において選出する役員 第7条のとおり
会長 副会長 理事長 副理事長 監事
 - 2 理事会において推挙する学識常任理事、学識理事、および顧問 第8、9、11条
 - (1) 学識常任理事
 - ：副会長・理事長経験者で、現職にある者。任期は役職に任じた期間と同等期間とする。
 - ：各専門部の代表。任期は役職期間中とする。
 - ：特に役員選考委員会で推挙した者。任期は1年間とする。ただし、重任は妨げない。
 - (2) 学識理事
 - ：会長より委嘱された役員を経験した者で、現職にある者。ただし、顧問は除く。任期は役職に任じた期間と同等期間とする。
 - ：特に役員選考委員会で推挙した者。任期は1年間とする。ただし、重任は妨げない。
 - (3) 顧問
 - ：会長経験者。任期は5年、又は、会長在職期間と同等期間とする。
 - ：県教育庁。任期はその職にある期間とする。
 - ：特に役員選考委員会で推挙した者。任期は1年間とする。ただし、重任は妨げない。
 - (4) 会長委嘱役員 規約第10条のとおり
- ※この内規は、平成21年5月20日より施行する。(令和2年一部改訂)

岡山県小学校教育研究会体育部会規約

第1条 この部会は、会則第7条の規定により、岡山県小学校教育研究会体育部会と称し、事務局を幹事長勤務の学校におく。

第2条 この部会は、小学校教育の研究推進を目的とする。

第3条 この部会は、前条の目的を達成するために、次の事業を行う。

- (1) 小学校体育指導者の資質向上に関する研究会・講習会・講演会などの開催
- (2) 小学校体育に関する調査
- (3) その他目的達成に必要な事項

第4条 この部会には、部会長(1)、副部会長(4)、幹事長(1)、書記・会計(1)、監査(1)、幹事(各郡市1名)をおく。

第5条 部会長・副部会長・幹事長・書記会計・監査の任期は1年とする。ただし、重任を妨げない。

第6条 部会長は部会を統括する。

2. 副部会長は部会長を補佐し、部会長事故あるときはその職を代行する。
3. 幹事長は部会の事務に従事する。
4. 幹事は部会の常務を処理する。
5. 監査は会計を監査する。

第7条 部会長・副部会長・幹事長・書記会計・監査は、幹事会において選出し、幹事は、各郡市支部会において選出する。

第8条 部会においては、随時会議を開き、必要事項を審議する。

第9条 部会運営に関する細則は、別に定める。(専門部等)

第10条 部会に要する経費は、次のとおりとする。

- (1) 幹事会の承認を得て決められる経費
- (2) 会員の支出する経費
- (3) 寄付金

この規約は、平成21年5月20日より施行する。(令和2年一部改訂)

令和5年度 岡山県小学校体育連盟役員名簿

役 職 名	氏 名	連 絡 先
会 長	那 須 健 二	岡山市立福浜小学校
副 会 長	根 木 克 明	岡山市立可知小学校
副 会 長	重 松 啓 司	倉敷市立連島東小学校
副 会 長	岡 崎 晃 治	真庭市立天津小学校
監 事	菅 野 純 郎	岡山市立御南小学校
監 事	渡 邊 俊 一	倉敷市立中庄小学校
理 事 長	松 本 年 永	岡山市立御南小学校
副 理 事 長	長 田 敏 彰	岡山市立御野小学校
副 理 事 長	合 田 典 生	岡山市立芳田小学校
研 究 部 長	中 西 一 臣	岡山市立高島小学校
研 究 副 部 長	高 原 大 嗣	倉敷市立倉敷西小学校
研 究 副 部 長	松 本 拓 也	岡山大学教育学部附属小学校
研 究 副 部 長	村 瀬 遼 平	岡山市立津島小学校
研 究 部 員	難 波 由 美	岡山市立妹尾小学校
研 究 部 員	井 関 哲 朗	岡山市立庄内小学校
研 究 部 員	居 森 陽 平	岡山市立高島小学校
研 究 部 員	竹 山 龍 也	岡山市立御南小学校
研 究 部 員	田 中 亮 太	岡山市立牧石小学校
研 究 部 員	平 本 友 美	浅口市立金光小学校
会 計	西 田 真 悟	岡山市立吉備小学校
副 読 本 会 計	宮 下 隼	岡山市立第三藤田小学校

役 職 名	氏 名	連 絡 先
書 記	中 谷 和 滋	岡山市立可知小学校
学識常任理事	小 林 紀 彦	岡山大学教育学部附属小学校
学識常任理事	原 哲 也	岡山市立高島小学校
学識常任理事	難 波 淳 志	岡山市立吉備小学校
学識常任理事	鳥 越 有実子	岡山市立三勲小学校
学識常任理事	松 本 容 子	岡山市立平津小学校
学 識 理 事	藤 澤 正 宏	岡山市立清輝小学校
学 識 理 事	三 村 忠	岡山市立富山小学校
学 識 理 事	海 老 澤 毅	岡山市立西大寺小学校
学 識 理 事	金 田 典 子	岡山市立千種小学校
顧 問	原 祐 一	岡山大学教育学研究科
顧 問	大 和 知 矢	岡山県教育庁保健体育課
顧 問	猪 木 一 見	
顧 問	方 川 淳	
顧 問	高 垣 明 彦	
顧 問	牧 野 泰 三	
顧 問	清 原 義 之	
顧 問	平 坂 正 夫	
顧 問	荻 野 克 己	福祉交流プラザたけべ
顧 問	有 森 貢	岡山市上道公民館
顧 問	小 川 泰 永	岡山市立福田小学校

令和5年度 岡山県小学校教育研究会 体育部会役員名簿

役職名	氏名	勤務校
部会長	那須健二	岡山市立福浜小学校
副部会長	根木克明	岡山市立可知小学校
〃	重松啓司	倉敷市立連島東小学校
〃	岡崎晃治	真庭市立天津小学校
幹事長	松本年永	岡山市立御南小学校
書記・会計	松本年永	岡山市立御南小学校
監査	菅野純郎	岡山市立御南小学校
幹事	岡山県小学校体育連盟理事が兼任	

令和5年度 岡山県小学校体育連盟 支部役員一覧表

支部名		小体連理事		研究部員		副読本会計		表現専門部長	
		氏 名	勤務校	氏 名	勤務校	氏 名	勤務校	氏 名	勤務校
1	岡 山	真治 和明	陵 南 小	河野 佑太	清 輝 小	合田 有作	横 井 小	中川 祐枝	宇 野 小
2	加 賀	川上 敦史	上竹荘小	倉本 幸治	円 城 小	太田 征児	吉備高原小	川上 敦史	上竹荘小
3	備 前	森下 元貴	吉 永 小			森下 元貴	吉 永 小		
4	和 気	正法地涼平	佐 伯 小	三嶋 拓也	本 荘 小	正法地涼平	佐 伯 小	三嶋 拓也	本 荘 小
5	赤 磐	安木 義晴	桜が丘小	安原 弘	仁 美 小	岡田 裕靖	桜が丘小	中藤 英雄	石 相 小
6	瀬戸内	土田 拓海	牛窓北小	瀧本 和喜	牛窓東小	角野 皓太	国 府 小	東山 利仁	行 幸 小
7	玉 野	原田 海音	田 井 小			原田 海音	田 井 小		
8	倉敷 (倉)	井上 旭	粒 江 小	中田 雅人	帯 江 小	山田 侑輝	倉敷南小	宮井 里子	豊 洲 小
9	倉敷 (児)	谷澤 賢治	児 島 小	高藤 翔大	琴浦南小	藤原 久士	本 荘 小	長田 善美	琴浦西小
10	倉敷 (玉)	宮本憲士郎	富 田 小	杉田 広輔	玉島南小	西原 貴志	玉 島 小	小河原祥子	玉島南小
11	倉敷 (船・真)	千田 道仁	蘭 小	上森 宏樹	呉 妹 小	清水 祐希	箭 田 小	岡本 実子	柳井原小
12	浅 口	奥山 浩樹	寄 島 小	大西 遥介	金光竹小	山本 将大	里庄西小	上杉 佳那	鴨方西小
13	笠 岡	吉峰 孝彰	中 央 小	妹尾 大輔	大 島 小	玉井 領	金 浦 小	後川 明希	城 見 小
14	小 田	横田 真人	山 田 小	藤島 誠人	中 川 小	豊福 純平	矢 掛 小	山下 美孔	三 谷 小
15	井 原	栗田 将典	稲 倉 小	井上 克信	美 星 小	川上 竜平	県 主 小	小川望々子	大 江 小
16	総 社	小河 直之	清 音 小	宗藤 宜之	総社西小	石地 崇裕	阿 曾 小	山本 直緒	新 本 小
17	高 梁	中村 奨	富 家 小	森下凌之介	川 上 小	堀田 治	川 面 小	洲脇英弥佳	高 梁 小
18	新 見	三上 大祐	思 誠 小	西村 英泰	刑 部 小	小川 実胤	新 砥 小	山室 文香	上 市 小
19	津 山	藤木 裕也	北 小	緒方 拓也	鶴 山 小	内藤 優一	林 田 小		
20	苫 田	桑田 治	鶴 喜 小	牧 雄一	奥 津 小	延原 健太	香々美小	延原 健太	香々美小
21	久 米	花谷 陸	旭 学 園	清友 信吾	柵原東小	清友 佑樹	神 目 小	樋口 桃華	加 美 小
22	真 庭	横山 慎吾	北 房 小			二宗 智泰	湯 原 小	後安 香奈	美 川 小
23	美作・勝田 ・英田	富山 巧貴	美作第一小	七瀧 将晃	美作北小	友保 顕裕	勝間田小	田口裕里子	奈 義 小

令和5年度版「わたしたちの体育」集計表

令和5年1月31日現在

支部名		わたしたちの体育児童用							教師用指導書							表現 運動 C D
		1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計	
1	岡 山	1,786	2,149	3,825	4,178	4,650	4,735	21,323	4	4	4	4	4	4	24	0
2	加 賀	52	64	62	71	71	70	390	1	1	1	1	2	1	7	0
3	備 前	57	131	130	142	125	141	726	0	0	0	0	0	0	0	0
4	赤 磐	358	372	375	375	385	363	2,228	0	1	0	0	0	0	1	0
5	和 気	83	77	92	85	100	93	530	4	4	5	4	5	4	26	0
6	瀬 戸 内	276	295	292	283	283	341	1,770	0	0	0	0	0	0	0	0
7	玉 野	370	405	382	376	397	376	2,306	0	0	0	0	0	0	0	0
8	倉敷・倉敷	3,125	3,092	3,134	3,224	3,144	3,285	19,004	4	3	3	9	2	3	24	0
9	倉敷・児島	437	502	489	504	500	512	2,944	0	1	0	1	1	1	4	0
10	倉敷・玉島	536	480	528	545	535	599	3,223	0	0	1	2	0	0	3	1
11	倉 敷 船穂真備	243	257	252	255	267	276	1,550	0	0	0	1	0	0	1	1
12	浅 口	323	336	353	317	391	359	2,079	0	0	0	0	1	0	1	0
13	笠 岡	283	269	319	319	330	327	1,847	3	3	4	5	3	3	21	0
14	小 田	94	97	92	95	102	107	587	3	3	3	3	3	3	18	0
15	井 原	249	225	230	258	270	292	1,524	5	4	4	4	5	5	27	0
16	総 社	683	627	679	657	643	723	4,012	2	1	2	0	1	1	7	2
17	高 梁	171	154	175	154	206	154	1,014	16	14	16	14	18	14	92	0
18	新 見	160	165	175	182	188	180	1,050	13	13	13	13	13	13	78	0
19	津 山	229	270	297	270	296	273	1,635	3	3	3	3	3	3	18	0
20	苫 田	0	0	0	0	109	94	203	0	0	0	0	0	0	0	0
21	勝 田	2	2	2	2	2	2	12	2	2	2	2	2	2	12	0
22	久 米	10	13	14	11	9	12	69	0	0	0	0	0	0	0	0
23	真 庭	0	3	27	21	28	38	117	4	6	4	6	4	5	29	0
24	美 作	1	1	1	1	1	1	6	1	2	1	2	1	2	9	0
合 計		9,528	9,986	11,925	12,325	13,032	13,353	70,149	65	65	66	74	68	64	402	4

— 県小体連関係連絡先 —

○事務局 〒701-0145 岡山市北区今保243-3
岡山市立御南小学校
TEL(086)243-2461 FAX(086)243-2462

会 長	那 須 健 二
理 事 長	松 本 年 永
副 理 事 長	長 田 敏 彰
〃	合 田 典 生
会 計	西 田 真 悟

○副読本のお問い合わせ
岡山市立第三藤田小学校 宮 下 隼
〒701-0221 岡山市南区藤田1757
TEL(086)296-2479 FAX(086)296-5243

○岡山県小学校体育連盟公式HP
<https://shoutairen.com/>



